

# 令和元年第3回今帰仁村議会定例会会議録

招 集 年 月 日	令和元年9月6日			
招 集 場 所	今帰仁村議会議場			
開 散 会 日 時 及 び 宣 告	開 議	9月12日 午前10時00分		
	散 会	9月12日 午後4時50分		
出 席（応招）議員	議席番号	氏 名	議席番号	氏 名
	1	島 袋 誠	8	與 那 勝 治
	2	上 原 祐 希	9	山 城 太
	3	與那嶺 透		
	4	座間味 薫	11	嘉 陽 崇
	5	座間味 邦 昭		
	6	吉 田 清 尊		
	7	玉 城 みちよ		
欠 席（不応招）議員	10	與 儀 常 次		
会 議 録 署 名 議 員	3	與那嶺 透	11	嘉 陽 崇
職 務 の た め 議 場 に 出 席 し た も の	事 務 局 長	我那覇 尚 一	書 記	松 田 洋 子
	局 長 補 佐 兼 議 事 係 長	玉 城 民 枝		
地方自治法第121条に より説明のため議場に 出席した者の職氏名	村 長	喜屋武 治 樹	経 済 課 長	久 田 哲 史
	副 村 長	謝 花 良 竹	住 民 課 長	仲 村 美奈子
	教 育 長	玉 城 奎	福祉保健課長	宮 里 政 有
	総 務 課 長	我那覇 隆 文	幼 保 連 携 推 進 室 長	宮 里 晃
	企画財政課長	田 港 朝 津	会 計 管 理 者	金 城 寛 樹
	学校教育課長	桃 原 秀 樹		
	社会教育課長	嘉 陽 健		
	建 設 課 長 兼 水 道 課 長	嶺 井 雄 二		

## 令和元年第3回今帰仁村議会定例会

議事日程第3号

令和元年9月12日（木曜日）

1. 開 議 午前10時

2. 付議事件及び順序

日程 番号	議案番号	事 件 名	摘 要
1		一般質問	

○ 座間味 薫 議長 ただいまの出席議員は10名です。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

(開議時刻 午前10時00分)

日程第1.「一般質問」を行います。

順次発言を許します。

5番座間味邦昭の発言を許します。5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 おはようございます。令和元年第3回定例会に対し、さきに通告していた点について質問を行います。

質問1. 今帰仁村の少子化問題について。

本村において子供の出生数が過去5年間、毎年80人前後で推移していたが、平成30年度の出生数が62人と極端に減少し、少子高齢化が急激に進行している結果があらわれた。少子高齢化は、村の財政への影響や保険料等の負担増、さらには大切な地域の歴史文化の継承も困難にし、村の将来にも影響を及ぼすことから、村として出生数減少の原因をどのように捉えているのか、さらに今後の対策をどのように考えているのか答弁を求める。

質問2. 保育の無償化。

令和元年10月から消費税引き上げに伴う保育料無償化がスタートするが、ゼロ歳から5歳児全ての子供が無償になるのか、保育料以外の負担はないのか答弁を求めます。

質問3. 今帰仁村の景気判断。

令和元年7月15日の新聞に発表された自治体景況感調査で、県内41市町村中、唯一「下降している」と回答しているが、どのようなことが原因で唯一下降しているのか、その要因となったデータ等の説明を求める。以上です。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 皆さん、おはようございます。5番座間味邦昭議員の質問にお答えします。

今帰仁村の少子化問題についてお答えします。村の出生数は近年微減微増を繰り返し、わずかずつ減少傾向にありましたが、平成30年度は過去最少の出生数となりました。減少の要因は多々あると思われますが、その一つに本村の25歳から34歳までの女性の減少が起因していると考えられます。今後の対策といたしましては、引き続き本村の人口ビジョン・総合戦略に掲げられている「若い世代の結婚、出産・子育ての希望をかなえ、安心して子育てが出来る環境の創出」の実現に努めてまいります。

次に、今帰仁村の景気判断についてお答えします。令和元年7月15日の新聞記事で掲載がありました内容については、東京五輪・パラリンピック、訪日外国人に関する全自治体首長アンケートの中で答えたものであります。オリンピック・パラリンピックを1年後に迎える中で、自治体としての取り組みや訪日外国人受け入れ対応といった設問の中で、1年前と比べた景況感についての回答でありましたが、質問にありますデータ等というよりは、私がふだんから住民との対話などの中での感覚としてお答えしたものであり、具体的なデータに基づいて回答したものではありません。

○ 座間味 薫 議長 玉城 奎教育長。

○ 玉城 奎 教育長 おはようございます。ただいまの5番座間味邦昭議員の保育の無償化についてお答えします。

ことし10月からスタートする「幼児教育・保育の無償化」の対象については、3歳から5歳児のまでの全ての子供とゼロ歳児から2歳児までの村民税非課税世帯の子供になります。保育料以外の負担については、これまで実費徴収している教材費や主食費のほか、保育料に含まれていた副食材料費相当額が保護者の実費負担となります。ただし年収360万円相当未満の世帯の子供及び全世帯の第3子以降の子については、副食費材料相当額分が免除されます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 今、答弁いただきました。質問1から順に質問していきたいと思います。

本当に今回、極端に子供の数が減ったと。その説明の中でどういった理由が考えられるかというところで、25歳から34歳までの女性の減少が起因していると。その起きた理由を聞きたいんですね。そういう意味でもう一度なぜ25歳から34歳までの女性が減少したかという理由をどのように捉えているのか。もう一度この辺、答弁を求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの5番座間味邦昭議員の質問についてご説明いたします。

原因と言いますと、実際に減少なんですけれども、それは転移数によるものということであります。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 転出はわかるんですね。その転出をどのように捉えているのかなと。例えばやはり雇用の場が少ないというところでの、それも一つの原因として捉えているなり、何かしらの要因がそれなりに考えられているのか、その辺をもう一度説明求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問についてですが、村長からもお答えしましたけれども、要因は多々あるということで、この多々の件かなとは思っておりますけれども、実際は転出により減っていると。転出する際には、転出する方からの理由などは問わないんですね。実際のところは、転出した明確な理由はわかりませんが、こちらから推測されるのは、実際に25歳から34歳までの女性の、現在わかっている村内の就業状況、雇用については医療関係とか小売業がかなり多いです。男性は圧倒的に農業が多くて次に建設業なんですけれども、その次に小売業や飲食、サービス業になりますので、そういったところ、まず職場に近い環境を選んでいるのではないかと、今婦人村とちょっと違って大型商業施設がありまして、夜間を問わず買い物ができる環境、若者の生活スタイルに合った環境を選んでいるのではないかと。中にはお子さんもいらっしゃるかと思いますので、保育所の入所が、待機児童が最近課題となっておりますけれども、そういった環境が整っているのかということも含めて、総合的な面で要因が考えられるのではないかと。以上です。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 いろいろな要因があるということではあるんですけれども、実際にこの資料請求させてもらった中で、いろいろ割合から人数をはじき出したんですね。平成30年度の転出者数に関

して20代、毎年大体30名前後の転出者が、プラスマイナス、転出者が20代で140名いたんですね、平成30年度。平成29年度も132名と、実際に転入、転出含めてマイナス64名ということで、極端にその年代が、確かに学校卒業、終わってから転出するとかということもあるかもしれないですけども、やっぱり極端に多いと。それは実際に女性が多いということではあったんですけども。実際その中の男性と女性の割合というのは、特に女性が多かったのか。その辺もう一度、この中身をもう一度説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃 幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 女性、男性の割合なんですけれども、こちらとしては子ども・子育て会議のほうで人口分析をしております、出生数が減っているという要因の中で、こちらのほうとしては分析しております。その中で、やはり出産する女性の数が減っているというところを、こちらとしては調査の中で確認をされていて、実際は男性が減っているから少子化につながるというところまでの分析はしてなくて、そういうような状況で今女性の数が減っているということでもあります。男性に関しては、同年代の男性が減っているのかについては、こちらとしてはまだ調査はしていないという状況です。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午前10時10分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午前10時12分)

5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 25歳から34歳までの女性の減少が原因であるというところで、転出した方の20代から30代の中での男性、女性の割合はまだそこまで把握していないけれども、転出の理由もあるし、もともと割合として少なかったと。これは今後、今の流れで行くと転出の割合が毎年これぐらいだと予想した中で、これから10代の状況を捉えると、今後どのように子供の数というのは捉えているのかなと。この辺の答弁を求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃 幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 この子供の数というのは転入してくるか、実際に出生するかで影響があるかと思います。その中で一定の転出、転入も毎年ありますけれども、出生数が減っていくということは、やはりこれまで説明したとおり出生した女性の割合が25歳から34歳までの方、出生した女性の割合が約7割近くこの年齢層に集まっていますので、実際にこの方々がそのまま減り続けると、出生数も、子供の数も減ってくるだろうということは予測をされております。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 私、これが5年、10年、この人数が続いているというのは、その説明とかいろいろわかるんですね。今まで80名前後いたのに、これが60名になった。女性の数が少ないというなら、この34歳まで、35歳になった女性の数が多かったということなのか。これ極端に下がったんですよ。人口というのは、そんなに極端に、減ってはいるけれども、20歳から34歳までの方が極端に減ったわけじゃないはずなのに、減っているのは間違いありませんよ。なのに80名前後いた子供の数が60名。だからそれは人口というよりは転出だと思うんですね。そこら辺が曖昧だと、今後の対策にしても、的を得た対策を得ないと思うんですね。もともと女性の数が少なかったと、平成30年度に始まった話ではないはずなのに、平成30年度に60名になったわけですよ。だからその辺の要因をもうちょっと詳しく調べないと、女性の数が

少なからずで済まされる話ではなく、やはり私は転出の要因がすごく大きかったのではないかなというふうに感じるんですけども、その辺もう一度答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問なんですけれども、確かに平成30年度は過去最低で、これは出生年度からすると62名になっていて、これまでは微増微減を繰り返してはいたけれども、平成30年度は確かに急激な減り方をしております。100名以内の出生になると、この増減、多少の、10名でも10%、20%の減少率が出ますけれども、今帰仁村はそういう状況なんですけれども、微減微増を繰り返しています。じゃあことしはどうかということになるとですね、これは参考になるのかあれなんですけれども、4月から8月までの5カ月間の実態は、平成30年度は22名しか出生していないんですけれども、ことしはもう既に40名出生しております。となるとこれから年間計算すると、大体96名ぐらいの、平均で行きますと、また復活すると。そのような形で、一概に96名になるとは言えないんですけれども、ことしはこれまでを上回るペースで出生しているということからすると、単年度の大きな落ち込みがまた次年度も続くかということ、実態はそうだと。ただしこちらが懸念しているのは、出生している多くの割合の女性の若い年代層が転出しているというか、少なくなっているというのは今後影響があるだろうという分析はしています。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 確かに平成30年度は一時的な下がりだったかも知れないですけども、確かに過去の5年間で平成25年度は93名出生しているんですね、平成26年度は73名と一気に下がっている、また平成27年度に92名に上がっているということを繰り返しながら下がって行っているんですよ。今回が60名、しかも後半だったらまだしも前半、62名という数字が出てしまって、この下がり具合が一気に行ったなど。また上がったとしても、またこれを繰り返していくというパターンが見えてきている。確かにその年々によって多いとか少ないとか繰り返すかも知れないんですけども、この下がり方がだんだん、かなりのペースで下がって行っているというところで。じゃあ去年は少なかったけれども、ことしは40名いますよと、そういうことで済ませちゃだめなんですよ。これは繰り返す。ただしその下がり方がひどいというところで、それを踏まえた上で対策を打たないと、この子供の問題とか人口の問題って、はい打ったからあしたよくなりますという話じゃなくて、5年、10年かかる、すごく長期的なスパンなんです。ある意味そこら辺を捉えて対策を打たないと、私は、数字というのには必ず理由があるし、1足す1は2なのか、1.5足す0.5なのか、必ず答えの数字の中には計算式の中にいろいろな意味があるわけですね。この出生数に関しても、ただことし下がったけれども来年は上がるよと、そんな問題じゃないわけですよ。人口の問題って、すごく地方交付税にも絡んでくるし、いろいろな問題に絡んでくると。この数字だけは捉えていかないと、全ての施策が間違ってしまうというか、ああ時代だからと、それはもう一番タブーというか、数字を読み解かないというところに問題があるという意味で、特に出生数、人口に関してはもうちょっと具体的に説明してもらいたいなど。そういう意味で改めて今考えている、今の説明だけではなく、ことしはふえますよではなく、今後どのように捉えているかというものをもう一度ちょっと説明求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 実態としてのお話をしたままで、やはり先ほどもお話ししたように、今後減少傾向にあるだろうということは分析しておりますという話をいたしましたけれども。ただ今後の対策はじゃあどうするのかという話だと思うんですね。これについては村長からも答弁がありましたように、人口ビジョンの高度総合戦略に掲げられている子育てしやすい村づくりと言うんでしょうか、出産、結婚も含めてなんですけれども、そういった安心して子育てができるような取り組みを人口ビジョンでも考えていると。これに合わせて子ども・子育て計画に関しても5年に一度計画を行っているところですけれども、その中で子育てしやすい村づくりというところで、できるだけ減少に歯どめをかけるような施策ということで、今いろいろな計画を整えているという状況です。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 この要因として、こういうビジョンをもって上げると。このビジョンですね、具体的な問題点というのがはっきりしないと、ビジョンで抽象的になるんですよ。どういう問題があるからこそ、それを解決するときに大まかなビジョンがあって、具体論が出てくるんですけれども、その原因がはっきりわからないと。時代なのか、そんな程度の話ではなくて、やはり全ての問題の解決に対しては数字をひもといていく。そこにどういった原因があるのか。それを踏まえた上でこういうビジョンというのは5年計画、10年計画ですよ。そうした形で行かないと、的を得た政策というのは絶対に出てこないんですよ。やはり数字をどのように捉えるか、この減少傾向をどのように捉えるか。次に質問する景気判断にしてもそうなんですけれども、肌感覚じゃない、やっぱり肌感覚も必要かもしれないけれども、これを判断する基礎数字、データというのはとても大切で、その中に、減っている原因の中に女性の方が減っているという判断を下す、なぜ減るのか。次の次を掘り起こさない限り、そこに原因があるのか、じゃあそれを解決するために5年、10年かけてその計画にねじ込んでいくということをしないと、ああ減ってる、じゃあ子育てをしやすいように、例えば医療費を無償にすればいいさ、こんな単純な話じゃないんですね。その答えを導くためにはいろいろな判断がそこにあるはずなんですけれども。どうしても、私が今説明した人口ビジョンにしても、本当に、若い世代の結婚、出産・子育ての希望をかなえ、安心して子育てができる環境の創出、それは当たり前の話なんです。その具体論が何なのかというところが常々見えない。その具体論を出すためには原因がはっきりしないと、具体論には行かない。そういう意味でも、今後そういった数字、人口の減少なども含めていろいろなデータが出てくると思うんですけれども、今後この辺を分析していくつもりはあるのかですね、その辺説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問なんです、実際にこの人口ビジョンというのは人口維持、できれば定住人口、移住も含めてですね、現在の人口をできるだけ維持して、できるだけまたふやせるようにというところであります。その辺がありますので、この分析は必要だと思っております。現在、実際に減少というのは転出が大きな要因だということでもありますので、その辺に関しても具体的な施策にまた取り組んでいくというところで考えております。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 すぐ行くと。実際に、今の時点でこの人口ビジョンの中の、安心して子育て

てができる環境の創出は具体的にどのような対策なのか、ビジョンなのか説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃 幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問なんですけれども、これまでどういったものに取り組んできたかということは、やはり子育て世代であれば当然保育所の待機児童が問題になっておりまして、そういう保育所に入所したいんだけど、入所できないという待機児童が発生してきました。そういう中で、村としては公立の民営化によって受け皿の拡充をしたり、また3歳児から幼稚園に入所できるような形で認定こども園も来年オープンします。それに関して一番課題であった低年齢児の受け皿、事業所保育所などというところもありますし、ましてや最近沖縄県で問題になっている子ども・子育て支援員の配置とかで寄り添った支援も行うと。今帰仁村では、子ども・子育て医療ももちろん行っていますけれども、その拡充も歯科が中学生までという形で、いろいろな取り組みをしています。また現在取り組んでいるのは、転出ということはここに住まいを構えないということになりますので、低廉な居住、住まいということで、これまで村営兼次団地とか、所得に応じた形で若者が、子育て世代が住めるような形で、入居もさらに絞った形での入居。今後、この村営団地に関しては湧川地区のほうにも12世帯というようなところもあります。また住宅を構えるということであれば、今月号でしたか、9月号にもありましたけれども浄化槽の設置の助成なども、そういったところもありますので、こういった形で転出することに対する歯どめをかけるような支援というのは、一つだけではなかなか解決しないんですけれども、可能な限りそういった形でとどまる、定住できるようなところの具体的なものは取り組んでいるところです。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 今説明いただきました。実際に待機児童の解消、これはすばらしいと思いますし、ただちょっと反論させていただきたいのが、これは国の施策の中で待機児童の解消というところで取り組んできて、それもその期間にうまくおさめてくれたなというところではすごく頑張られたなと思います。ただこれは国の施策の中で進めてきたところで、今帰仁村のどういったものが原因でこれをしなきゃいけないんだというところは、ちょっと感じなかった部分が、民営化、待機児童解消しなきゃいけない、これはもう今帰仁村に限らず全国的に取り組んできた中での今帰仁村の取り組みというところの中で、私が言っているのはそのビジョンの中に、今帰仁村の人口の減少の中で、待機児童の解消も必要なのかも知れないけれども、どうしても人口減少をどのように食いとめるかというところが、もう少しやはり分析が必要なのかなと。先ほどの浄化槽の話もありましたけれども、あれも定住のためだったのか、単独槽だから環境の問題だったのか。単独槽を合併処理にしたという、それで補助の出し方で、新規のものではなく、古いものを取りかえるという形であるというところでは、ちょっと違うのかなと。また村営住宅に関してもそれはとても大切だし、低所得者、弱者を救うという意味でもありますけれども、湧川はあれはたしか北部広域連携事業の中でのもので、よそからも入れるというところではいいのかも知れないけれども、やっぱり12世帯という限られた世帯数というところでは、少子化を抜本的に解決するものではないんだけど必要ではある。そういう意味でわかりはするんだけど、やっぱり今後数字をうまく捉えた中で、この数字から導き出した施策がこれなんだとかということが具体的にわかると、今帰仁村の現状ってそうなんだよねとか、こういうことだからこの策を打つんだという、私たちが感じるようなものを一緒になっ



て考えていきたいなと。そういう意味では、私は数字をこまごま言うんだけれども、数字に結構答えが返ってきたり読み解くと、意外と答えが出てしまうとか、意外と単純だったりする部分があったりとか。人口の問題ってそんなに単純じゃないかもしれないけれども、いろいろな施策によっては数字は基本であるということは、今後のビジョンなり施策なり、今後考えられる対策なりというのは、そういう基本データをもとに打っていつてもらいたいなというのはすごく感じます。改めて今後この辺、子供の、少子化をどのように対策していくか。そして若者や、今婦仁村が元気であり続けるためにはこういった若い世代、子育て世代がここで安心して暮らせる対策をするためには、そういったデータをもとに今後やっていくとか、それをもう一度課長のほうからも聞いて、後でまた村長にも言いますけれども、担当のほうからもう一度その辺の説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問についてご説明いたします。

実際、子育てというのは1課では、子育て環境、居住環境、定住環境は1課で対応できるものではありません。そのためにも人口ビジョンということで、総合的に村の移住、定住も含めてですね、人口維持を含めて対策していくというところでありますので、この辺に関しては一番もととなる人口ビジョンのほうの中で分析した形で、どのようにしたら今後の課題をクリアできるのか、いい方向に持っていけるのかというのは、その辺は今後引き続き検討、協議しながら進めていく方向になるかと思います。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 課長、これは本当に人口の問題とか少子化問題ってすぐできるものではないです。ただしそのデータとか、いろいろな状況を判断しながら、的を得た施策を担当部局は打っていつていただきたいなと思っていますので、その辺はしてください。村長にまたお伺いしますけれども、実際に今人口ビジョンで1万人を目標にしていると。村長、これ人口ビジョン1万人というのは数だけの問題ですか。年齢バランスとかも含めてなのか、その辺ですね、もうちょっと人口ビジョンの中の1万人というものに対してどのように捉えているのか、説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 5番座間味邦昭議員の質問にお答えします。

人口ビジョン1万人というのは、今の今婦仁村の現状からして、1万人、多ければいいわけですがけれども、1万人が今婦仁村の現在の状況としては適当だろうと、適当というか、そのぐらいが一番元気のある今婦仁村の村づくりのためには適当じゃないかということでのビジョンであります。先ほどからありますように、特に少子化問題は、これは担当課長からも答弁ありましたように、いろいろな要因が重なっていると思います。引き続きですね、先ほど答弁しましたようにビジョンの総合戦略の中にあります国、県の施策でできるものもあるし、また村独自の施策、例えば今第1子から第4子までのすこやか支援金とかもやっておりますので、総合的に座間味議員の提案も含めてですね、また具体的な、村としては今までやっている以上にできるのがあるのか、総合的に検討していきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 村長、今それはわかるんですが。その中で、私が具体的に聞きたいのは、

村長として1万人の中の年齢バランスはどんなふうに捉えているのか。その辺、もう一度答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

人口ビジョンの当面の目標としての、今帰仁村としての1万人の目標でございますが、現在の人口バランスを勘案して総人口を1万人とするということで目標に掲げておりますので、どの年代をふやすとかの人口ビジョンではなく、総人口として1万人を目指そうということになっております。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 今答弁いただきましたけれども、私は何かをふやすとかそういう話ではなくて、計画の中でどのような人口バランスが唱えられているのかということを今聞いているんですね。それをもう一度答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。

(休憩時刻 午前10時33分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。

(再開時刻 午前10時34分)

田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

その目指すところの人口ビジョンでの1万人でございますが、現在の今帰仁村の状況と言いますか、策定が平成27年度の末でございますけれども、その時点での今帰仁村の人口を細かくというか、5歳単位のその当時の調査がありますけれども、その時点での人口バランスと言いますか、今帰仁村の人口を総人口として1万人を目指そうということになっております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 今、課長のほうから説明がありましたように、総人口を1万人と、確かに答えは1万人というのはよくわかります。でも施策を打つ中で、その式がはっきりしていないと答えが出ないんですね。10代、20代を1にして、高齢者を99にする対策での1万人なのか。それとも若年層を3割、4割で、現役世代を3割というバランスで行くのか。そういったバランス構成を考えないと施策って出ないと思うんですよ。じゃあどこにターゲットを絞ればいいのかとか、やっぱりそういった人口バランスっていうのはとても大切で、答えを言うのはとても簡単ではあります、1万人を目指そうとか1万5,000人を目指そうと。じゃあどういった計算式をもとに1万人に持っていくかという、実は中身がとても大切。先ほど言ったように、その式をつくるには現状を把握しないといけない。今の形で行くと、バランスとしては今のような人口バランスで適切だと捉えているのか。もしかしたらビジョンではそう書いてしまったけれども、本当はそういった人口バランス、年齢バランスを実はこういうふうに求めているんだよということがあんなら、また説明を求めたいので、すみませんがもう一度説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。

(休憩時刻 午前10時36分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。

(再開時刻 午前10時38分)

田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

目標を達成するための人口バランスでございますが、先ほども説明しましたけれどもそのときの基準と

なる人口を1万人ということで想定されておりまして、それはふえる人数を各世代と言いますか、5歳階層で割り振った数値としてはありますけれども、それぞれどこにウエイトをかけてふやそうということではなくて、総人口としてふやしていきましょうという計算ということと、それをするためにも例えば役場の各課に事業がございますが、その事業を展開していつて今帰仁村を住みやすい村にしようというのが人口ビジョンの基礎となっております。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 先の説明では、5歳ずつを重ねていった割合でいろいろ検討していると。今、その人口ビジョンで掲げられたその目標としている割合と今の現状はどのようになっているのか。説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午前10時40分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午前10時41分)

田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

人口ビジョンの基礎となっている人口数でございますが、国調人口をもとにしておりますので、来年度予定される国勢調査の人口の中で、また年齢層に応じた人口の確認がとれますが、次回の国勢調査の人口によってそちらのほうの判断ができてくるかと思えます。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 今国勢調査の判断ということで、5年に1回でしたっけ。じゃあ5年ごとの国勢調査の結果が出ないとデータは分析できないという解釈なのか。あの当時の国勢調査の年齢階層をもとに1万人をビジョンとすると。その年齢階層がどのぐらい割合だったら健全な財政、行政運営ができるだろうと、そして1万人を目標にしているんだと。そのときのバランスが、今のバランスと、今の現状の人口のバランス、年齢バランスが、例えばゼロ歳から5歳児を、例えばですよ30名を予定していたと。それが40名いるならそれは到達していると。でもこれが10名だった場合には、じゃあどういふ対策が必要かという対策案が出るんですね。その辺まで、年齢の割合を出した中で、どこが劣っている、どこがふえているということは捉えられているのかですね。人口ビジョンの中で5歳ずつの段階で細かく打っていると。今の話だと国勢調査の結果が出たと、今帰仁村はこうであるというだけであって、それは分析はされていないということなのか。その辺もう一度説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

人口ビジョンにおきましては、その策定時のスタート時点での人口の推移でございますが、その年齢階層によって分析がされております。そのときは2010年度の人口ビジョンの9,257名から始まっておりまして、国が示している2060年の将来人口、日本での人口の減少が懸念されている推計が出ておりますけれども、それに基づくシミュレーションなどを踏まえて、今帰仁村としては1万人、そのまま何も施策を打たなければ全国的な推計の中で人口減少が起きてしまうということもありますので、それでいろいろな施策を打って今帰仁村の人口を安定させようと、ふやそうということでされております。その中での分析とし

ては、年齢階層に応じた推計が試算されております。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 今人口、これから将来統計がありますよね、2060年の。確かに減っていきます。それはわかります。だからどういう対策をとるかというところの中で、国勢調査が入ったときも目標ビジョンでは1万人とうたっているのに、国勢調査では9,200名ぐらいなんです。じゃあその800名をどのように埋めるかということの対策は打たれていないということなのか。またそれと2060年までには人口が減っていくというのはどこの自治体も、このように高齢化が進んでいると。今言うように1万人を目標にするなら、普通対策は少子化対策じゃないかなと。高齢者がどんどんふえていく中で人口は減っていくのは、子供の数が減るんですよ。だからこの数字をひもとけば大体対策とか打ちかたというのはわかるし、目標と掲げている1万人を維持するためにはどういう施策が必要かと。この年齢階層、5年ごとにやっている中で、だんだん上の階層が多くなっていくのはもう事実なんです。ここが減りすぎてしまって人口が減っていくというのは、それはすぐわかる話であるので。その辺ですね、ただ計画を立てたというだけで、中身の具体的な対策とか、今の現状、あのときの計画でやっていた年齢バランス、階層が今適切に維持されているのか。されていないと思います。それは確かに人口はとても難しいので。だからどの辺が弱いのかも含めて、常に検討されているのか。国勢調査の結果を待って、地方交付税の算定だけを気にしているのか。その辺ですね、もう一度その辺、データというのを分析されているのかですね。自分たちが掲げた計画が達成されているのかとかということを、その都度チェック入っているのかですね。その辺もう一度説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

人口を表現するときに、今、人口ビジョンで使われております国勢調査の人口と、また毎日変動のあります住民基本台帳上の人口があるかと思えます。そちらのほうは国勢調査と住基人口には異差がありますけれども、住基人口でしたら毎年の変動も確認はとれるかと思えます。ただ現在、住民基本台帳上の人口の減少とか増加とかというのを毎年推移を検証している状況ではございません。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 やっぱり計画を立てたなら、その都度チェックというのはとても必要になってきますし、どの辺につよさが出たのか、その計画に成果が表れたのか、さらにまだまだここは改善しなきゃいけないのかというのは、やはりその都度していかないと、こういった行政の課題というのはすぐに解決しないと、5年後、10年後かかるかもしれない。その中で早く現状を把握して対策を打つということはとても大切でありますし、実はこの人口状況というか、その先までネットで調べたらすぐ調べられる部分があるんですけども、みんなすごい下がり方です。でも私がことし2月だったか四国のほうに研修行ったときに、ここは5年間で3,000人人口が減るぐらいの過疎化が進んでいるところでした。ここの話を聞きますと、もう子供が人がいなくなっていく恐ろしい現状が起きていると。その中で、私たちは人口をふやすなんていう夢物語は語らないと。どのように維持するか、この歯どめをどのようにかけていくか、常に分析しながらどういう施策を打てばふやせなくても今の現状を維持できるような仕組みをつくつ

ていく、本当にその都度状況に合わせて対策を打っていくんだと、それでも歯どめがきかないんだという状況なんですね。施策を打ってもそう改善するとは思っていないです。でも打たない限り、現状に合わせた対策を打たない限りこの歯どめはとめきれないんですよ。緩やかにさせるだけでもすごい効果があると思います。それぐらいデータとか今の現状を、どうしても私は行政側が、私たちも含めてそうなんですけれども、データとか数字をもとに的を得た施策を打って行かないと、ただ予算がありましたからやりましたと言ったって、なかなか実感として湧かないわけですね。本当に所得の向上になるのか、人口の増加になるのかというのは、特にクエスチョンの部分があって、やっぱりそういったデータをもとにどこの年齢層に弱さがあるのかとか、どういった職種に弱さがあるのかとか、もっともっとどういったところを改善しなきゃいけないんだということを、やはり分析しながら対策を打ってもらいたいと。5年に一度国勢調査のデータがあって計画をつくりました。また5年後開きましようということではなく、常に自分たちが出した計画がちゃんと達成できているのか。達成するのは難しいです、その中でもどこに弱さがあるのかということを常に考えながら施策を打つ、対策を打っていただきたいと思います。そういう意味で村長、途中で担当課に振られてしまったんですけども村長、そういう意味では今後ですね、私は前にも言いましたけれども、そういった数字、データに関して今後やっぱり分析していったほしい。ここに今帰仁村の弱さやさらには強さもあります、魅力もあります。そういう意味では今後ですね、そういったものを取り入れていくのか、村長の見解をちょっと伺いたします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 5番座間味邦昭議員の質問にお答えします。

今の座間味議員の指摘でございますけれども、この本村の人口ビジョン総合戦略を掲げてからその後の取り組みについての現段階での現状把握、そして国、県の施策、そして村独自の施策を含めてどういうふうになれば少子化問題ですね、人口ビジョンの1万人に向けてできるかというのは、データも参考にしながら、まず現段階でのビジョンの現状把握、そして今後どのような施策ができるかについては、全庁挙げて検討していきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 私は、一切この施策をやっていないとは言わないです、やってはいます。ただし物すごい勢いで人口が減っていくおそれがあると。そうしたらやっぱり今以上にそれを捉えて対策を打って行かないと、もう減ってしまってから、もう終わってしまってからじゃあ遅いんですね。今でも遅いぐらいでありますけれども、さらにそういった今現実やっている施策を踏まえながらも、またいろいろな分析の中に取りこぼしがあるかもしれない、また新しい発想が出てくるかも知れない、そういった意味で今帰仁村の現状に合った、国や県が進めるだけではなく今帰仁村には今帰仁村の実情があります。それを踏まえた中で施策を打っていただきたいと。もう具体的に何かという話ではなく、まずはデータからお互いで読み解きながら問題点を解決していく努力を、お互いで切磋琢磨しながらやっていきたいと思っておりますので、これはぜひ今後とも、せっかくあるデータ、やっぱり行政はこのデータをもとに住民サービス、弱さ、強さを分析しながら打っていくものだと思いますので、ぜひそういうことを取り組んでいていただきたいと思って、次の質問に行きます。

次の質問は保育の無償化というところで、10月から保育の無償化が始まると。今回、9月の村の広報のほうにも1ページを使って説明をされていました。これはもう国が子育てをしやすいところを一つ一つ踏んでいってくれたなというところでもありますけれども。ただ私も含めて人なんで、自分に都合のいい解釈をしてしまったんですね。無償化と言ったら全部無料だと思っていたら、開いてみたら結構給食費が出たりとかというところで、思い込んでしまったり、私も含めて無償と言ったら全部無償になるんだと思い込んでいた部分もあったので、改めてですね、どの辺に負担があるのか。広報でも書いてありますけれども、もうちょっとその辺の説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃 幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問についてご説明いたします。

幼児教育・保育の無償化になりますけれども、基本的に無償化になるのは保育料の部分であります。これまで保育料無償化になる、ただし無償化になるのは3歳から5歳児の児童の保育料。保育料の中には、実は給食費の副食費、おかず代が含まれておりましたけれども、その部分は実費徴収になります。これはこれまでも主食費等は実費徴収になっておりましたので、義務教育の学校でも給食費は実費徴収になります。それ以外にも社会福祉制度の入院をした場合とかですね、医療費は公費なんですけれども食事代は実費ということで、そういう観点から食べる物、食事に関しては実費徴収。それ以外の実費徴収はこれまでと同様教材費とか園での行事費などが実費徴収になります。その3歳から5歳児までのものと、あと低所得者層の年収360万円未満相当額の世帯については、その副食費、これは国で4,500円という形で決められておりますけれども、その分が免除になるということです。あとゼロ歳から2歳児に関しても副食費は低所得者層については免除。ただし多子軽減のお子さんについてはこれまで同様にという形になります。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 今説明いただきました。実際、この360万円未満の世帯に関しては副食費というか給食費も無償になると。じゃあこの負担が生じる世帯というのは、今全体の何割ぐらいの世帯が対象に、大まかで構いませんのでというのと、やはりこの副食費が負担が出たと。それは何かしら国も理由があったと思うので、その理由がわかるのであれば、保育料に給食費を含めない、それで負担させるという考え方ですが、何か理由があったからそういう、村の判断ではなくてこれは国の判断だと思いますけれども、その辺を改めて説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午前10時57分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午前10時58分)

宮里 晃 幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問についてご説明いたします。

村では、有償になる方が何パーセントかということですよね。9月の保育料改正で大まかにその対象が把握されるんですけれども、まだその正式なパーセンテージは出ていないんですけれども、こちらから想定されるということで、参考に8月分の保育料で算定したところ、ゼロ歳児から2歳児までは61%、有償ですね。3歳児から5歳児までに関しては39.2%、その程度の割合の方が8月の保育料から算定すると。正式には9月に改定してから決定が出ますけれども、そういう割合になっています。あとなぜ副食費が出

るのかというところは、国の制度でも示しているんですけども、先ほどの説明にもかぶりますけれども、食材料費には在宅で子育てする場合にも出る、生じる費用であります。また現行制度も保護者が主食費というのは負担していると。先ほど言ったように義務教育の給食費も含めて、いろんな社会福祉制度でも食事代は出ているという観点から、今回の副食費に関してはやはり保護者が負担すべき額ということで保育料の免除からは外されているという状況です。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 今、無償化とは言っても、副食費の負担が出る家庭が低年齢児で 6 割ぐらい、3 歳児以上で 4 割ぐらい、平均で言うと 5 割ぐらいの、半分の家庭が無償だと思ってもやっぱり負担が出るところで、やはりその部分が給食費であると。先ほど私も言いましたけれども、無償化無償化ということを知ってしまっていて、私も勘違いして、そういった負担があるとは思っていなかった。そういう意味では保護者もその辺で、なぜ無償化と言っているのに負担があるのと、やっぱり誤解もあるかもしれない。そういう意味では、その辺の方たちに対する説明や、今のような、実費負担をしなきゃいけない理由ということをちゃんと説明していただきたいなと。さらに今後、村がその辺まで負担するのかというのは次のステップとして、次の方が質問するかもしれないんですけども、私としてはその辺でちゃんと、まず説明というか、やっぱり誤解を招いてしまっているおそれがあると。自分がそうだったから、無償だと思ってしまっていた部分があったので、無償だと思っている人間だと 100 円でも負担したくないと思いたくなってしまうのがやっぱり人なので、そういう意味ではその負担の説明は丁寧にしていっていただきたいと思っていますので、その辺も含めて、何でこれぐらいわからないのではなく、説明をしていただきたいなと思っています。その辺は保護者に対して説明をお願いいたします。

では次の質問に行きます。村長、私、7 月 15 日の新聞を見て、今帰仁村の村長は唯一言ったなど、すごい感心させられて、確固たる根拠があったのかなと思ってやりましたけれども、肌感覚だったというところで。じゃあ村長、ちょっと聞きたいんですけども、ふだんから住民との対話でその感覚、下降気味であるということなんですけれども、どういった対話が住民からあってその判断を下したのか。その説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 5 番座間味邦昭議員の質問にお答えします。

質問の中で、7 月 15 日の沖縄タイムスの記事に掲載されておりますけれども、県内 10 市景況上向き、これはお持ちだと思っておりますけれども。このアンケートがありまして、実は今回私がアンケートに答えたのは、村内の景況だけの調査じゃなくて、これはお持ちかも知れないけれども、5 月 24 日に共同通信社から東京五輪・パラリンピック訪日外国人に関する全自治体首長アンケート、こういうのがありまして、18 の設問がありまして、質問項目が 198 項目に及ぶ膨大なものでありました。その設問が 1 から 18 まであるんですが、15 のほうに景況感についてありました。これについては 1 年前と比べ雇用、産業、出荷額、飲食ということがありましたけれども、膨大にありましたので、また回答期限も迫っておりましたのでこういう答弁になっているわけなんですけれども。肌で感じたというのは、たびたび今帰仁城もよく顔を出しているんですけども、前年度に比べて 2 万、これがメインだったものですから、いわゆる観光客も 2 カ年で 5

万人も減っているし、村の民泊も減っているし、古宇利のふれあい広場へ行っても、どうですかと言ったら、前よりちょっと減っているなということで答えたものでありますが。ただこういう形でマスコミに出るということは、またこのパラリンピックの調査というのは全く書いてありませんので、私はあくまでも外国人観光客が減っているからという感じで書いたのですが。今後ですね、いろいろな形で年間相当のアンケートが来ますので、村長の判断ですぐ回答できるものもあるし、それはそういう形で載りますと、非常に誤解も生まれかねますし、こういうアンケートについては村長の判断だけではできないものについては、アンケートに対して全て調査して答える必要があるのか、手間暇もかかるし、そこら辺は慎重に、アンケートに対しては答える必要があるなど。その点では今回のこの景況感については、1が上向いている、2が下降している、3が変わらない、どっちに回答しても、これはそれなりにこうして公表される場合にはデータがないといかんということでありますので、今後マスコミ等あるいはテレビ、直接記者の取材含めてありますので、18項目ある中で最後のほうだったので、もう相当最初からチェックして行って、十分これについては課内とか関係課で協議したということではないので、今後そういう回答のあり方については、今回を踏まえて検討していく必要があるなど。できるだけマスコミ等から設問がある場合は、これは情報公開であるし、また村の考え方とかを発信することは大事だと思いますので、回答を拒否するものではありませんけれども、調査することができなければわからないとか、変わらないでいいのかとも思うんですが、こういうふうなことで今回は回答したということであります。主に観光客が今帰仁城跡含めてですね、そういう感覚で答えたものでありますので、今後のそういう回答については慎重を期して、今帰仁村は景気が悪いのかと言われるような、誤解を招きかねないので、今後はそういう対応をしていきたいなと考えております。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午前11時06分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午前11時06分)

5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 この質問の中に雇用、産業創出、飲食、観光客の動向というところで、一つの観光客の動向に村長は肌感覚で判断したと。今帰仁城跡は減ったというのは、この前の一般質問でも聞きました。古宇利も大分減ったという解釈なのかお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問に対しまして説明いたします。

古宇利広場の件でございますけれども、向こうのデータの取り方がレジ通過を主にデータとして捉えておりまして、そこからまた一緒に車で来ている人間が何名以上だということで、概算でのデータの取り方になっておりますので、今ここで減ったとかふえたとかというのは、ちょっと答えにくいということでございます。

○ 座間味 薫 議長 5番座間味邦昭議員。

○ 5番 座間味邦昭 議員 じゃあデータをとられてないということですね。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 レジ通過のデータはありますけれども、じゃあ実際に何名ということになりま



すと、ちょっと正式な数字ではございませんので、概略でとっているということでございます。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 じゃあレジ通過は上向きなのか、変わらないのか、下降気味なのか。説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問について説明いたします。

今ちょっと手持ちのほうにございませんけれども、すみません。昨年までは伸びていたというふうに記憶しております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 村長、今回ある意味反省ということでもいいんですが、私、下降しているなら下降しているでもいいんですよ。ちゃんとしたデータをもとに、さらにその肌感覚も踏まえた中での判断なら、そういったところで村長は、じゃあ次に施策を、こういう感覚があるならば打つのかなというふうなところかなと思ったんですけれども。ただ肌感覚だけで景気を判断したら間違ってしまうなど。でも肌感覚でそれが下降しているというならば、村長、どの辺を対策打てばいいと思っているのか。景気が悪いと、下降していると判断を下したということは、それで終わりなのか。何かしらこれを踏まえた、雇用、産業創出、飲食、観光客の動向が下降しているというふうに肌感覚として捉えたというならば、村長として今後どのようにしていこうかという対策があるのか、肌感覚で終わりなのか。その辺ちょっと説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 座間味邦昭議員の質問にお答えします。

今後の感覚として下降しているということであればということですが、きのうも特に今帰仁城と古宇利のほうで観光客多いわけですが、今帰仁城は残念ながら2カ年間で約5万人、相当減っております。ただこの桜まつり期間中においては、前回は過去最高でした。集中的にイベントをしたときにはふえているけれども、それ以降減っていると。それは定期バスの運行がなくなって、一部復活しているということもありますし、それからまた観光、団体で来ようにも団体で食べられるところがないということがあります。そしてそのほかに、この間視察したんですけれども、天気の悪い日は平日であるけれども、ほとんど券販売所を除いてほとんどの店が休んでいると。これは村の指定管理で管理をさせていますけれども、その店については6店舗、それぞれ契約ということになって、これがないんですよ。例えば休むときにはどうしてもらいたい、そこら辺も含めてですね、やっぱりいつ来ても、団体が来る場合もあるし個人、そこら辺も今担当のほうから、今テナント業者を含めて協議をしているところであります。それと観光クルーズ船が2021年に来る予定でありますので、今から観光客をどう今帰仁城、そして村内の観光地にということについては取り組みをしていきたいと思えます。古宇利については、ご承知のようにもうことしかから古宇利観光拠点施設、もう工事も入りますので、現在の今帰仁城のテナントが6店舗で古宇利は5店舗を予定していますが、今のよう個人個人に契約したほうがいいのか、あるいはそこを埋めてですね、どうすれば来たお客さんが観光して、そして食べて、お土産が買えるようなものができるか。今設計の段階

からいろいろ担当と話をしている最中でありますので、これを含めて肌感覚で下降として回答したわけですが、今まで以上に観光客が肌感覚じゃなくて、具体的データでふえたと言われるような施策を総合的に検討して実践していきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 肌感覚という、一般の人が言うには別に、全然これは構わないんですけども、やっぱり行政の長たるものが新聞報道にも載るぐらいの、一つ一つの発言がその地域の状況を説明するし、また長がどのように捉えているかということも、やっぱり一般の方ではないんですね、村長は。そういう意味では発言に対しての重みというのはとても大切だと思いますし、やっぱりそういうトップになる方は肌感覚がとても大切です。ただし感覚だけじゃなく、やっぱりデータはしっかり捉えた上で、ここに弱さがあるんだということが言えるようにですね、立ち話で少なくなっているヤッサーという程度で判断をするようなことがあってはならないと。先ほど古宇利が減っているんですか、ふえているんですかと言ったときにも、データがないとかということで、曖昧な答えというのはもうこれ以上深く聞いちゃいけないのかなと、上向いているという言葉が出たら大変なことになるのかなと思って、もうそれ以上言わなかったけれども、やっぱりその辺はそのデータとかを踏まえて、今後判断していただきたいし、村長はそういったものを踏まえた上で決断を下す人なので、感覚だけでやるんじゃなく、そのデータをもとに研ぎ澄まされた感覚を使ってほしいと。研ぎ澄まされないような感覚ではだめなので、その辺ですね、村長、ここは私はとても強く言いたい。今回のアンケート、ああ思い切って言ったなと思ったけれども、何かしら今帰仁村に、私たちが知らないデータをもとに何かしらあったのかなと思ってちょっと調べてみたら、そういう感覚だったということがないように、それなりの判断を下すときにはちゃんとしたデータや、いろいろな状況をやった上で、その対策、判断をしていただきたいし、またそれだけを言うのであれば、じゃあどうするんだということも含めて話ができるような形での判断を下していただきたいと思っていますので、村長、もう一度ですね、その辺、私はとても、自分がそんなに数字が強くないものだから、数字が強くないと言えないというのがとてもあるんですね。だから村長も、村長はもっと上手をいっていると思いますので、そういう意味ではもっともっとその辺に、私をタツピラカスぐらいの気持ちでいいですから言って、だからこんななんだよと。お前ら甘く見るなよと、今帰仁村厳しいよと言えるぐらい、やっぱりそういったものを言ってほしいと。肌感覚だけでは、私はそうかというのは、なかなか納得ができない部分がありますので。村長、今後のその辺のことをもう一度答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 座間味邦昭議員の質問にお答えします。

今回のこの回答についてですね、沖縄タイムスで報道されまして、今帰仁村のみ下降ということでありますので、先ほどの弁解ではないんですけども、タイトルがそういうタイトルだったものですから、そこにちょっと肌感覚と言ってしまいましたけれども、設問の中ではまたこれがなくてですね、雇用、産業いろいろありますので、もっと細かく見た上で、回答するのであれば関係課含めて、もっと観光業界とか観光協会とか商工会からの意見を聴取して回答すべきだったなと反省しております。今後そういう肌感覚だけではなくてですね、そういう調査に基づいて回答すべきところはするし、それからもし下降している

ということであれば、そこら辺の分析も含めて、じゃあどうすればふやせるのかということも含めて検討して、こういうマスコミへの回答については今後、そういう対応をして頑張っていきたいと思います。

○ 座間味 薫 議長 5 番座間味邦昭議員。

○ 5 番 座間味邦昭 議員 村長、本当に今後そういった感覚を研ぎ澄ませて、いろんな自分の発言に対しては重みをもった発言ができるように、私も含めてやっていくつもりでいますので、やっぱりそういったもの、これは村長以下、やっぱり私も含めてそういったどこに問題があるんだ、こういったデータからここに弱点があるんだとか、どこに強さがあるんだとかという中での得た施策が打てたり、気づかなかった点をそういったデータや根拠から示して、ああそうかという中でわかりやすいように説明ができるような形で打って行っていただきたいと思っています。それを込めて私の質問として終わります。以上です。

○ 座間味 薫 議長 暫時休憩いたします。 (休憩時刻 午前11時17分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午前11時31分)

次に、吉田清尊議員の発言を許します。6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 ただいまから、さきに通告しました9月定例会の一般質問を行います。

質問事項1. 古宇利島の光ケーブル・高速ブロードバンド通信実現について。

平成30年3月議会において、「古宇利島の光通信・情報インフラ整備」を沖縄県と国に働きかけ、早期に取り組んでいただくよう一般質問を行いました。議会としても全会一致で決議し、村とともに関係機関に要請を行いました。改めて一般質問を行います。2021年4月の本部港へのクルーズ船の入港、嵐山のテーマパークの開業予定もあり、古宇利島の皆様、観光関係者、観光客は一日も早い高速ブロードバンド通信と、それに伴うWi-Fiサービスの利用を心待ちにしています。古宇利島に今年度中に光ケーブルを開設し、高速ブロードバンド通信、Wi-Fiサービスを利用できるようにしていただきたい。実施計画について村長の見解をお伺いします。

2. 名護市と今帰仁村と海洋博を結ぶ高規格道路建設促進について。

2021年4月から本部港に外国からクルーズ船が年間88回入港予定であります。「ジャパンエンターテイメント」がオリオン嵐山ゴルフ倶楽部の用地に、2024年末にもテーマパークを開業する方針と報道されています。嵐山へのアクセス道路の起点に想定される名護東道路の整備が着々と進んでいます。今帰仁村内の国道505号は近年、国内外の観光客の増加により、交通量が飛躍的に伸び、混雑に拍車がかかっています。沖縄自動車道許田インターチェンジにつながる名護東道路を起点に、名護市伊佐川から今帰仁村嵐山と村内各地を通り、海洋博公園を結ぶ新規の将来計画4車線の高規格道路の建設を今帰仁村・名護市・本部町の3市町村で、それと北部12市町村で多くの機関、団体と緊密な連携のもと沖縄県、国・政府に陳情・要請行動を繰り返し行っていただきたい。名護市・今帰仁村・海洋博を結ぶ新規の将来計画4車線の高規格道路建設の実現を、沖縄県、国・政府に陳情・要請するお考えがあるでしょうか。村長の見解をお伺いします。

3. 嵐山のテーマパーク計画について。オリオンビールほか4社の共同出資会社「ジャパンエンターテイメント」が嵐山ゴルフ倶楽部用地にテーマパークを建設する報道について、今帰仁村としてどのように

対応する考え、計画でしょうか。現在把握しているテーマパークの会社の所在予定地（住所）、テーマパークの計画、建設費用、開業時期等、現段階での詳細について村長にお伺いします。

４．今泊と古宇利の道路と排水路の整備促進を。

本部町向け国道505号、今泊区信号機から右折した先の通称ミーモー周辺の道路は、雨が降ると2週間も水が引かず池のような状態が続きます。今後、ミーモー周辺道路の整備計画についてお伺いします。村道第3古宇利原線に隣接する里道の排水路には、勾配の影響で雨水等が流れず悪臭と蚊の発生源となっています。また排水路がブロック塀の真下にある箇所もあり、整備が必要と考えますが見解をお伺いします。村道古宇利線隣接里道について、道路として利用されている個人有地を購入する計画についてお伺いします。村道古宇利線付近、村有地の旧農業用水用ため池周辺の里道の拡幅工事とT字路3カ所の整備工事、村道古宇利一周線と里道とのT字路の整備工事計画について伺います。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 6番吉田清尊議員の質問事項1. 古宇利島の光ケーブル・高速ブロードバンド通信についてお答えします。

古宇利島への光ブロードバンド整備については、北部広域ネットワークの延伸として北部広域ネットワーク機能強化事業が本年8月に採択されたと北部広域市町村圏事務組合より連絡を受けております。12月から工事の着工を予定しており、古宇利ふれあい広場までの延伸を今年度完了するとのこととあります。

質問事項2. 高規格道路建設促進についてお答えします。質問要旨の高規格道路建設の実現については、本島を縦断する国道58号整備の一環で、名護市の世富慶から伊差川まで整備が進んでいます。国道事務所では、その延長先の計画については現在未定で、今後、今帰仁村や本部町と意見交換を行いながら計画していきたい旨の説明がありました。本村としても、将来にわたり大きな影響を受けるものであることから、関係部局と積極的に意見交換や要請等を行っていききたいと思えます。

質問事項3. テーマパーク事業についてお答えします。質問要旨のテーマパーク事業の計画概要等については、令和元年7月29日に「株式会社 刀」から村への事業概要の説明がありました。計画の概要は嵐山ゴルフ倶楽部用地を改修し、約64haの施設面積で、主に森林を生かした体験施設を整備するとのことでした。テーマパークの対応については、具体的計画が示された段階で対応を考えます。

質問事項4. 今泊と古宇利の道路と排水路の整備計画についてお答えします。ミーモー周辺道路の整備については、早急に整備を行う予定です。村道第3古宇利原線に隣接する里道の排水路については、村道第3古宇利原線側に勾配を修正できるか検討を行っていききたいと思えます。また排水路がブロック塀の真下にある箇所についても、集水ますの方向へ排水路を変更できるか検討を行っていききたいと思えます。村道古宇利線隣接里道の個人有地の購入については、用地測量、用地単価等の問題もありますので、今後検討を行っていききたいと思えます。村道古宇利線付近の里道拡幅工事及びT字路3カ所の整備工事については、拡幅工事T字路工事1路線工事として補助事業がないか、検討していききたいと思えます。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 この光ケーブル工事が完成した場合に、この高速ブロードバンド通信、Wi-Fiの利用がいつごろからできるのか。それとも当面、別の工事が必要で、これが利用できないのか。あ

るいはふれあい広場周辺は利用できるのかどうか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○我那覇隆文 総務課長 6番吉田清尊議員の質問についてご説明申し上げます。

この光ブロードバンドの件については、きのうも同様の質問が出ておりましたが、これについては北部広域市町村圏事務組合が実施主体となつて行われる事業でございます。これについてきのうも同様の説明であったんですが、事業の開始が、私たちのところでもらっているスケジュール表では12月から始まって2月末までで完了するということでの大まかなスケジュールをもらっております。その中で、いつごろからWi-Fiが使えるのかということですが、この辺の詳細については、大まかなスケジュールはいただいておりますけれども、サービスの開始とかということについては詳細がはっきりしませんので、ちょっとお答えできない部分でございます。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 ではこれを早急にですね、いつから使えるのか、それと地上というか、この古宇利島の中のほうではNTT西日本が設備とか工事、電線とか通してですね、そういう工事が必要なのかどうか、そういう把握をしているのかどうかですね。そういう協議をまたNTT西日本とも協議しているのか。そういう配線とかが必要だと思われましても、そういう状況を今把握しているのか。古宇利島で例えば、私もはっきり存じ上げませんけれども、電柱に電線を通して光通信、高速ブロードバンド通信、Wi-Fiサービスが使えるようにしていくための、このやるべきことがどのようなことがあるのか、把握しているのかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○我那覇隆文 総務課長 ただいまの質問についてご説明申し上げます。

先ほど、北部広域市町村圏事務組合が実施主体となつてということで、橋のたもとまで光ケーブルを幹線整備ということですが、そこから実際古宇利の島内に支線を這わすということについては、実際どこが整備するのか、今ちょっと会社の名前、特定の会社の名前が出ましたけれどもそうではなくて、支線についても今後幹線が整備された時点で、きのうも言いましたけれども他の事業者が参入してくる可能性も十分ありますということの中で、今NTT西日本という話が出ましたがそうではなくて、この辺については支線、島内の整備についてはまだ業者が決まっているわけでもございませんし、今後の動向を見据えてということでもあります。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 このふれあい広場まで光ケーブルをつないだ場合に、その先の古宇利島全体的な高速ブロードバンドが使えるようにするための工事というか、その整備というか、それについては民間が行うということになっているのか。それとも行政も県や国に、あるいは今帰仁村、あるいは北部広域市町村圏事務組合とか、そういうところで協力して、予算的な措置も、あるいは何か手続上のお手伝いとかもしていくことが必要なのかどうか、お伺いしたいと思います。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○我那覇隆文 総務課長 ただいまの質問でございますけれども、先ほどとちょっと答えは一緒になり

ますが、橋のたもとまでは基幹整備ということで、北部広域市町村圏事務組合の事業として整備をします。そこから先については、まだ不透明な部分もありますが、例えば民間の事業所が参入して、その部分に支線を這わすということの事業をやりたいということがあった場合とか、まだこれ全然お話が見えない部分でございますので、その後、そういうところが出てきたときにどういう整備をしていくかについては、その時点で村も判断させていただきたいと思います。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 どうしてこのようなことを聞くかという、対応が大変遅いと感じているわけですね。というのは、来年2月にも光ケーブルがもう引かれると。ふれあい広場までできるということも確定している状況でありますので、そういう中で一日でも早く古宇利島全体的に光通信、高速ブロードバンド通信、Wi-Fiが使えるようにしていくために、民間企業なり、あるいは北部広域市町村圏事務組合とかと連携しながら、それを実現させるためにはどのような方策をとればいいのか、どういうふうな対策をすればいいのか。あるいは何か国、県とかにも協力要請のお願いが必要なのか。そういう情報収集を早急に、一日も早くやって、住民や観光業含めて古宇利島の方々が、もう本当に長く待っているんですね。中には、前にお聞きしたときには、橋を越えて本島側に来てそういう利用をしているということまでお聞きしました。そういう大変な不便を困っていますので、そういうふうな、一日も早い高速ブロードバンド通信ができるような体制を整えるために、今後ぜひ関係機関なり団体なり、企業なり、あるいは北部広域市町村圏事務組合なり、対応を早急にやっていく、そういう思いがあるのかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 ただいまのご質問についてでございます。

議員がおっしゃるとおり北部広域市町村圏事務組合の事業の中で、今回2月まで、今仮のスケジュールの案でございますけれども、2月までで幹線は通ると、橋のたもとまではケーブルが来るということでございます。その後ですね、島内に支線を這わせて、島内どこでも大体使えるような形でというのは理想であります。それもやはりスピード感を持ってやっていかないといけないわけですが、今後ですね、この辺きのうも言いましたが民間参入、事業者も手を挙げてくるところはたくさん出てくると思いますので、その辺の情報収集にはスピード感を持って対応したいと思っております。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 ぜひ情報収集を早急にやって、それから総務課だけでは不足でしたら全庁体制ですね、プロジェクトチームをつくるのかどうかですね。そのあたりも含めて古宇利住民や企業の方々、宿泊施設の方々の思いを本当に真剣に捉えていただいて、早急な対応をしていただきたいんですけども、そういうふうな指示なり、あるいはそういう体制をつくっていくことについて、村長のほうからそういう一日も早く実現するための対応策ですね、役場としてどういうふうに取り扱っていくのかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 6番吉田清尊議員の質問にお答えします。

先ほど課長からも説明がありましたように、来年2月末までには北部広域市町村圏事務組合の事業とし

てふれあい広場まではほぼ実現できる見通しがつきました。その後、古宇利島の中としてはですね、質問のとおり早目にやる必要があると思いますので、基本的にはその他の補助事業があればいいわけですが、今のところその他の補助事業がまだ決まっておりませんので、できるだけ民間主導でですね、先ほど課長からありましたNTT西日本含めてですね、どういうふうに早くできるかということは庁内で検討して、早目にこの古宇利島の中も利用できるように取り組んでいきたいと思っています。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 ぜひそのように対応策をとっていただきたいと思います。それで名護市出身でもあります副村長ですね、これは名護市とかも、屋我地島までは来ているわけですから、そのあたりも含めて村長、課長会、あるいは役場全体的にですね、副村長としてもこの件について真剣に取り組んでいただきたいけれども、その思いについてお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 謝花良竹副村長。

○ 謝花良竹 副村長 古宇利島は光ブロードバンドというのは以前からの強い要望だったということで、今回北部広域市町村圏事務組合のネットワークで事業が採択できたということで、担当課長も村長もおっしゃっていますけれども、そのものを役場全体的に情報収集なりということで捉えていきますので、そういう提案をしていきます。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 ぜひ取り組んで、一日も早く古宇利島の方々が高速ブロードバンド、Wi-Fi、光通信の利用ができるようにしていただきたいと思います。それでこの光ケーブルの開設工事に伴う工事の総予算ですね、ふれあい広場までの総予算と、その総予算の中で沖縄県と国が負担する金額ですね、それから今帰仁村も負担するのかですね、それについてお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 ただいまの件についてご説明申し上げます。

きのうもちよっと触れましたけれども、令和元年度の北部広域ネットワーク機能強化事業については、令和元年度事業費として4億400万円です。これについては、北部連携促進特別振興事業ということで8割の補助となりますので、4億400万円のうちの国費が3億2,300万円入ります。それに伴う2割分の負担ということで、これは北部広域ネットワークの事業となりますので、北部12市町村でおのおの負担していきますけれども、これの案分された今帰仁村の今回の負担額については620万5,132円というふうに幹事会のほうの資料では示されております。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 村の負担が620万円余りということでありまして、今後民間がやるだろうと思っていますけれども、古宇利島の中の整備について、今後今帰仁村として持ち出しとか考えられるのか。今の段階でのことでよろしいですが、今後今帰仁村として負担があるのか、あるいは民間が全額なのか、あるいは国・県から補助が幾らかまた出る可能性があるのか。そのあたりについて現段階で情報を持っていたらお伺いしたいと思っています。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。

(休憩時刻 午前11時57分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。

(再開時刻 午前11時58分)

我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 ただいまのご質問にお答えします。

今後島内の整備についてということでの基本的な考え方ということですが、先ほど村長の答弁からもありましたが、基本的には民間の参入ということでやっていただきたいということがありましたけれども、今後の動向によって補助事業等の活用、それから基本民間で100%やっていただければ一番いいことではあるんですけれども、この辺については動向を見ながら検討させていただきたいということでもあります。

○ 座間味 薫 議長 暫時休憩します。

(休憩時刻 午前11時59分)

午

後

○ 座間味 薫 議長 再開します。

(再開時刻 午後 1 時30分)

午前に引き続き、6 番吉田清尊議員の発言を許します。6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 改めて古宇利島の光ケーブル・高速ブロードバンド通信実現についてお伺いします。

先ほどお聞きしましたら民間企業がやるか、また補助事業があるかとか、いろいろ情報収集をこれからする段階であるということでもあります。今帰仁村の中原茂仁前副村長が内閣府にいらっしゃいます。そうすることで、国からの補助事業の導入のことも可能なのか。あるいはまたそれ以外の、この古宇利全域の光通信、高速ブロードバンドを実現するための方法とか企業との連携とか、アドバイスあるいは連携がいただけるかも知れませんが、そのあたりぜひ連携してやっていく、前副村長とも内閣府とも連携していく考えがあるかどうかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 吉田清尊議員の前今帰仁村副村長、中原副村長との連携についてもやる必要があるんじゃないかということですが、本人の了解を得ていますので公表しますが、引き続き前今帰仁村副村長としていろいろな面で情報を共有しながら依頼すべきところは依頼していきたいと思いますが、きのう本人に確認しましたら、公開してもいいという了解をもらっていますのでこの場で公表しますが、実はきのう内閣改造がありまして、新しくオリンピック担当大臣になられた橋本聖子大臣の秘書官の内示を得たと、内示をもらったということでそのお知らせの電話がありました。その新しい部署で頑張ってくださいというのと、また引き続き今帰仁村の応援もよろしくということを申し上げておりますので、その点についてはまた情報も提供をお願いしますと。内閣府からの出向だと伺っておりますので、引き続きそういう情報については共有しながら、直接の沖縄担当からは外れてもですね、また依頼すべきところは依頼してやっていきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 ぜひ内閣府を離れても、沖縄県から、今帰仁村から離れるときに、今帰仁村のことをよろしくと言ったら、これからも頑張りますよ。と力強いお言葉も残してお帰りになりましたので、ぜひそのようにしていただきたいと思います。



続きまして名護市と今帰仁村と海洋博を結ぶ高規格道路建設促進についてですけれども、これのほうはこの海洋博に100万人ぐらいのお客さんが年間来た時代もあったわけですが、これが今や約500万人と言われていています。今後1,000万人とか1,500万人にもなっていくかも知れませんが、それからテーマパークの嵐山での計画、それから2021年の本部港へのクルーズ船の入港ですね、そのあたりも含めていった場合に、どうしても道路が必要だと考えています。そのときにぜひ提案させていただきたいのは、恩納村のバイパスが当初2車線で作って、将来計画4車線ということで土地は取得をしておいて、2期工事という感じで4車線をするという形をとっております。ぜひその件で高規格道路を沖縄県とか国とか、あるいは北部3市町村ですね、本部半島の名護市、今帰仁村、本部町と話し合いをするときに、あるいは12市町村でもですね、4車線将来計画という形で、今帰仁村としては打ち出させていただきたいわけですが、その件について見解をお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後1時36分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後1時38分)

嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 6番吉田清尊議員の質問に対して説明いたします。

きのうも答弁いたしました。要請は毎年行っている状況で、議員のおっしゃる4車線については来週からですか、本部町、今帰仁村、国道事務所と協議会を立ち上げますが、この辺で情報交換しながらですね、できるのかできないのかは協議会を進めながら検討していきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 国道事務所と来週でも協議会を立ち上げて協議を始めるということでありませう。これを今のこの交通渋滞、国道沿いに、よく見ていると本当に混んで、道路を横断するのも大変だという方々も多いんですね。そういうことで生活のほうでも困っているし、観光面、あるいは商工業、あるいは農林水産業に携わっている方々も新しい道路、あるいはもっと広い道路が、分散された交通ができればいいなという希望を多くの方々が持っているわけです。そういうことでぜひですね、国道事務所と協議する段階で、将来4車線の計画でということで、今帰仁村から提案をしていただきたいと思います。それをやって、これは私が考えるに一気に無理だと思います。将来計画という形でよろしいかと思えますけれども、ぜひその方向で国道事務所なり、今後また県とか国とか、ほかの上部機関と協議する場合でも、あるいは要請する場合でも、そういう方向で4車線であることを明確に今帰仁村として打ち出させていただきたいんですが、村長の見解をお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

先ほど申しましたように、協議会はまだ始まっていないんですが、協議会の中で4車線の検討はさせていただきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 4車線が必要だという思いはあるのでしょうか、村長からひとつ答弁を求めたいと思います。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 6番吉田清尊議員の質問にお答えします。

この高規格道路の4車線の件ですが、これは今課長からありましたように、これから協議会を立ち上げて、本部町、今帰仁村、名護市含めてですね、国道事務所、関係機関とやっていくわけですが、この協議会の場で今帰仁村だけ4車線ということで要望できるのかですね。協議会の中でいろんな意見が出ると思っています。ルートの問題、それから事業計画、年度予算ありますが、その中で将来観光客がふえるということが想定されるということであれば、2車線より4車線がいいということは理解できますので、協議会の場で、村として4車線をしたほうがいいということが言える段階であれば別に差し支えないんですが、今の段階で村だけが4車線にしてくれということは、ちょっと協議会の場にはなじまないんじゃないかなと思います。できたらこの協議会に参加するところ全部、協議の結果ですね、事業主体である国道事務所含めてやったほうが、より具体的に事業が進むんじゃないかなと考えております。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 私の質問の仕方がちょっと適切じゃなかったと思います。村長がおっしゃるとおりでありまして、ぜひ名護市と今帰仁村と本部町で、この協議をしていただいて、4車線が必要なんじゃないかということでの話し合いを3市町村で話し合いをして、それでそういう結論を持ってぜひ国道事務所、あるいは国、県に要請というか考えを述べていくという形をとっていただきたいと思います。そういうことで、名護市との連携がとても重要だと思いますけれども、その件について今後、名護市、本部町と話し合いをする中で、この件についても4車線でいかがかという形で、名護市から今帰仁村にいらっしゃっている副村長ですね、そのあたりぜひ名護市との連携も必要ですので、そのあたりの名護市との協議について、取り組む考えをお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 吉田清尊議員の質問にお答えします。

4車線の件ですが、これはまだ協議会もスタートしておりませんので、協議会をスタートする前に今帰仁村、本部町、名護市で協議をして、この協議会の場で4車線にしてくれという要望というのは、余りこの作業の進めかた上、余りなじまないんじゃないかなと思います。あくまでも協議会を立ち上げた上で、この中で名護市も4車線の意見も出るかも知れないし、本部町も出るかも知れないし、それとルート等については、必ずしも4車線が可能かと、いろいろ議論される中で、三者が一致したらこの協議会の場で必要だと思いますが、協議会をスタートする前に、これを協議してやるというのは、協議会の今後の作業にはなじまないんじゃないかなと思いますので、協議会の場で先ほど答弁したとおり対応したいと思います。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 なかなか伝わっていないようですけれども、3市町村の協議会の中で協議を、論議を進めていただいて、ぜひ4車線の取り組みをしていただきたいと思いますと思っているところであります。それでルートの件なんですけれども、このほうは、沖縄自動車道の許田インターチェンジから名護東道路を通過して伊差川に出て、嵐山を通過して、テーマパークとかの周辺近くを通過して、今帰仁側から、伊豆味線ではなくて、屋部線のほうではなくて、今帰仁側から海洋博につなぐという案が最も適切じゃないかと。

このほうをぜひ協議会の中でお話をしていただいて、そういうルート希望を出していただきたいんですけども。今帰仁側を通ることについて、村はどのように考えているか。嵐山を通して海洋博ということですね、そういうルートがよろしいかと思えますけれども、村の考えはいかがでしょうか。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

ルートの件かと思いますが、今帰仁村としては今帰仁村のいいように要望はしたいと、協議会でですね。これがとおるかとおらないか、名護市、本部町もありますので、今帰仁村の意見がとおるかはわかりませんが、今帰仁村の意見としては今帰仁側を通過、今帰仁城跡あたりが便利になるような方向で意見は述べたいと思っております。結果はちょっとわかりませんが、以上です。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 嵐山を通過して今帰仁側という形で考えていただきたいんですけども、嵐山を通過することについてはいかがでしょうか。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

村としては、ベストは嵐山を通過するというのが一番最短距離かなと思っております。名護市の土地もありますし、今帰仁村だけの希望では、先ほど答弁しましたように、とおるかはわかりませんが、嵐山を通過、最短距離で今帰仁村としては要望したいと。結果はわかりませんが、要望はいたします。以上です。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 ぜひですね、この名護東道路とつないで嵐山を通過、今帰仁村内各地を通過して海洋博というルートで実現するように話を進めていただきたいと思えます。それでまだ協議会の段階ではありますけれども、そういう協議会が整ったり話が整って、県や国に要請、要望、あるいは書類を提出する前の段階で12市町村ではなくて、去る3月に名護市民会館で12市町村で北部の交通関係の大きな大会がありましたけれども、ぜひ今帰仁村と名護市と本部町ですね、この今お話ししている名護市、村内嵐山、村内各地を通過して本部町海洋博への新規高規格道路のことについてですね、3市町村、それから行政、各機関、団体ですね、観光関係はもちろんですけども、農林水産業含めてあらゆる団体を網羅した総決起大会をもって、この要請をしていただきたい。これは少し先ですけども、そういう思いを持って大会もゆくゆくは適切な時期を見て大会も開いて、実現に持っていくという考えを持っていただきたいんですけども、いかがでしょうか。お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 ご説明いたします。

きのうも答弁いたしましたが、年に2回ですね、国のほうに市町村会から要望を出しております、今帰仁村、本部町、国頭村、大宜味村、東村のルートですね。総決起大会ができないかという話ですが、まだ協議会も先ほど答弁しましたように立ち上がっていない状況であります。何も煮詰まっていない状況なので、これは煮詰まって盛り上がった時点で総決起大会なりを考えていってもいいのかなと思っております。

以上です。

○ 座間味 薫 議長 6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 繰り返しになりますけれども、その場合ですね、ぜひ12市町村の全ての道路とか、あるいは空港とか、橋とかの要望とかを含めてのことも必要ですけれども、大変なこの連携が必要な、あるいは関係する市町村として今帰仁村、本部町、名護市、そのほうで今後その大会を、総決起大会を開くときにはやっていただきたいというふうに考えています。そういうことで12市町村ではなくて、これは適切な時期が、今すぐということは全く申し上げませんので、適切な時期が来たときに3市町村でまず総決起大会をやるという思いがあるか、改めて伺います。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 先ほどこの件については答弁し、課長からも先ほどありましたようにこれから協議会を立ち上げていろいろ作業をしていくわけですから。この道路は3市町村だけではなくて、いわゆる高速を通して全部関係することでもありますので、3市町村だけでやったほうがいいかということですが、具体的にまだ協議もしておりませんし、もし仮に要請する場合でも、大会する場合でも、じゃあ大会して何を決議して、これどこに大会決議を持っていくのかということもありますので、これは当然3市町村だけではなくて、私の考えとしては北部12市町村全てに影響がある大きなプロジェクトでありますので。あるいは例えば要請先が国である場合には総合事務局、国道事務所との調整もして、タイミングを見てやらないと、3市町村だけ先にやっても、果たしてこれが適正であるのかということもありますので。協議会で煮詰まって、先ほど課長からありましたように煮詰まってですね、この段階であつたら3市町村だけでいいのか、あるいはやっぱり12市町村がいいのか、あるいはどこに要請するのか含めてですね、出た段階で対応したいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 ぜひですね、私は12市町村も必要だということを思っているわけです。3市町村、関係団体も、市町村も含めてやって、また12市町村でも連動する形でやっていただきたいなという思いでございます。

次に、嵐山のテーマパーク計画について伺いたいと思います。テーマパーク建設に連携協力して今帰仁村でやっていくお考えでしょうか、伺います。

○ 座間味 薫 議長 田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 6 番吉田清尊議員の質問について説明いたします。

先ほど村長から答弁がありましたとおり、テーマパークについては先日の一般質問でもございましたが、具体的な計画が示された段階で対応を考えたいというふうに思っております。

○ 座間味 薫 議長 6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 このテーマパークのほうの計画がまだはっきりしないところがあるようですけれども、いつごろに明らかに、この内容ですね、テーマパークの中身とか、10ぐらいのテーマを設定して考えているようですけれども、そのあたりのものはまだ明らかになっていないのかですね。いつごろだったら、例えばこれが、いろんな計画が今帰仁村に示されるのかですね。そういう予定、ある

いは予想が今ついているのか、全くついていないのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

テーマパークの事業概要でございますが、昨日の質問にも答えました、それで村長からも答弁されているとおり、自然をテーマにしたというところの概要と言いますか、それしか示されていませんので、またいつごろまでに具体的な計画が出されるという見込みも村のほうには示されていない状況でございます。

○ 座間味 薫 議長 6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 テーマパークの内容がはっきりしてきた場合に、今帰仁村としても積極的にその開業に向けて協力していく基本的なお考えなのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

先ほど村長から一番最初に答弁がありましたとおり、具体的にになった段階で対応を考えます。という状況でございます。

○ 座間味 薫 議長 6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 嵐山のテーマパークでございますけれども、このテーマパークはきのうの質問でもありましたけれども、約64ha全ての土地が今帰仁村に存するということであります。その場合に、ぜひ私はスピード感を持って、村のほうで積極的にテーマパークに提案、あるいは協議を進めていただきたいわけですが、この本社が今那覇市にあると認識していますけれども、この本社機能と事業所です、この事業を行う、このテーマパークを行うそのものが今帰仁村と言われているので、北部振興の大変な期待があると、新聞にも8月17日に大々的に報じられました。そういうことで今帰仁村だけでなく北部地域、あるいは沖縄県の観光にも大きな影響を与える、いい影響もたくさんあると思っています。ぜひですね、今までの嵐山ゴルフ場の場合にゴルフ場利用税や法人税が今帰仁村に入ってきたわけですが、それを今帰仁村に法人税が、固定資産税もそうですけれども、入ってくるようにするために、ぜひ本社の機能と事業所、あるいは事務所とか含めて今帰仁村に持ってくるということを基本的に考えて協議に当たっていくという考えがあるでしょうか、村長にお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 田港朝津企画財政課長。

○ 田港朝津 企画財政課長 ただいまの質問について説明いたします。

そのテーマパークの具体的な計画がいつごろ出されるのかもまだ未定でございますし、またそのテーマパークとしての事業実施箇所としては、現嵐山ゴルフ場内の64haというのは、予定としてはそのほうで計画はされておりますけれども、内容についてはまだ具体的になっておりませんし、本社が事業実施の、今の本社が那覇市に所在している状況でございます。そちらのほうが今帰仁村になるのか、そのままになるのかというのはまだ具体的に何も計画は村には示されておきませんので、その時点で検討していきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 6 番吉田清尊議員。

○ 6 番 吉田清尊 議員 具体的にになっていく中でありますけれども、ぜひ今帰仁村に本社とそれか

ら事業所ですね、名護市にではなくて持っていくというふうな考えをお持ちなのかどうか。村長はぜひ今帰仁村にこれを、話し合いの時期がきた場合、あるいは村から話をする場合、あるいは向こうから話が合った場合に、そういう基本的な考えを持っていただきたいんですけども。税収が、もう5年、10年、20年、30年では大変な額になりますので、これはとっても大事な、今帰仁村の今後の振興のために必要なものですから、今帰仁村として本社あるいは事業所含めてですね、今帰仁村にお願いしたいという明確な今帰仁村の方針を持っていただきたいんですけども。村長、これはぜひ判断していただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 6番吉田清尊議員の質問にお答えします。

この本社を今帰仁村にということですが、きのうも答弁しましたように、今自然を生かしたテーマパークということしか正式に私は会社から聞いておりませんので、今後いろいろ、これから呉我山は終わったと聞いておりますが、湧川その他含めてですね、事業計画の説明をして、さらに環境影響評価調査全て終わってですね、もう具体的にこういう事業をすると、そのために今帰仁村に例えば水道の問題、それから村道の利用の問題についてですね、もう事業が確定してそういう段階ではですね、事業をする以上は本社、事業所は今帰仁村にあったほうが村としてもいろいろな面でメリットがありますので、その時点で村としての対応をしていきたいと、今は仮定の話でありますので。事業をするということが確定であればですね、本社を今帰仁村にということは要望していきたいと思います。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 ぜひこれはやっていただきたいと思います。嵐山ゴルフ場が今帰仁村に来る場合に、名護市側に事務所を、建物を置くという話があったときに、この地域の有識者の方にお話をして、ぜひ誘致の際には今帰仁村側に、この事務所を置くように地元から要望していただけないかということをお話ししたことが昔あります。そのことで名護市に決まりかけていたという話があったんですけども、今帰仁村に最終的に決まって、これまでの法人税、固定資産税がたくさん出てきたことがあります。そうすることでぜひ今後も今帰仁村に本社を置く、事業所を置くように計画を立てていただきたいと思います。

次に4番目の今泊と古宇利島の道路と排水路の整備計画についてお伺いします。今泊の通称ミーモー周辺ですけども、本当に池みたいにですね、雨が降ったら約2週間この水が引かないという状況があって、大変な不便ですね、宿泊施設とかもあるわけですけども、雨靴で晴れた日に通っているという現実があるわけです。その水がたまっているこの部分を、ぜひ海に汚水が流れない方法で計画を考えていただきたいんですけども。それでこっちがおおよそ目算ですけども、150mぐらいの距離が未舗装になっています。そのほうの舗装を浸透式、今泊の馬場ですね、プーミチと言いますけれども、馬場のほうが浸透式の道路で、そこに水がたまらない方式になっています。そういうふうな浸透式の道路を約150mと思われますけれども、そこをやって、その水のたまるところを、その改善も含めて計画をして、事業のメニューを探していただきたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 6番吉田清尊議員の質問に対して説明いたします。

議員がおっしゃるのは、多分透水性舗装かと思っておりますが、透水性舗装に関しましては通常のアスファルトの倍近くの単価がしまして、非常に事業費がかかる事業であるので、透水性舗装だけでもまずいのかなと。両サイドか、片方には排水をつくらないと厳しいのかなと思っておりますので、それは事業は模索しますけれども、ちょっと時間がかかるのかなと思っております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 これはですね、本当に時間はかかると思います。特に距離の短い場所でもありますので、かえって予算メニューが探しにくい面もあると思いますけれども。ぜひですね、この約150mと思われるその地域の道路の整備を含めてやっていただきたいと思います。観光客が、国内を初め海外からも多くの方々がこの地域に来ているわけですが、本当にお客さんに、近くにスーパーがありますけれども、あるいは食事するところもありますけれども、そこに行くときに歩いて簡単に行ける場所なんだけれども、お客さんに車を使って、ここから食べに行ってくださいね、買い物してくださいねと、この宿の方はお願いをしているような状況で、今帰仁村のイメージが大変悪くなっていますので、ぜひそのあたりの事業メニューを探してやっていただきたいと思います。手始めに、この池みたいになっている、約2週間も水が引かないこの地域のほうから先に整備をしていくお考えがあるでしょうか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

答弁書にも書いておりますが、早急に整備をするということになっております。応急措置として、この水がたまるところが海のすぐそばで、ちょっと建設課としては水を抜いて、赤土が流れない方法で対策をとって、応急措置でへこんでいるところを埋めて、フラットにして応急措置を考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 村道第3古宇利原線に隣接する里道の排水路ですね、このほうは現場へ行きましたら東のほうと西の方から両方上がってですね、住宅の前のほうに排水が全部たまって、どこにも流れないで水が雨降るたびにたまってですね、もちろんここは排水ですから、土ではなくてコンクリートでできていますので、その間ですね、水が引かずに悪臭がして蚊の発生源にもなっているということであり。このほうも早急な対策が必要だと思いますけれども、その対策について改めてお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

議員がおっしゃるように勾配がとれていないという状況があります。村長の答弁にもありましたように、勾配を修正できるかは、検討して対応していきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 またもう1カ所の、そのすぐ近くですが、排水路がブロック塀の真下まで来ている状況があって、それで長年の排水の関係でブロック塀が少し傾いて、剥離してですね、ブロック塀がもう離れて、剥離しているんですね。そういうことで、この地域の方々、このブロック塀が倒れて、通行している人やまた自動車に当たったら、損害賠償を要求されるんじゃないかと大変心配しています。そのほうも、その下のほうの路盤もまたへこんでというか、やっていますので、その道路の部分と

排水路を含めてですね、整備を早目にやっていただける考えがあるか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 ご説明いたします。

議員がおっしゃるように、下のほうで排水が、集水ますと受け口があるんですけども、ちょっとずれていてですね、それが民家のブロック塀にちょっと当たっているのかなと思っております。この辺は答弁にもありますように、排水を集水ますのほうにまっすぐ行けるのか、事業費もかかることなので、その辺を検討しながらやっていきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 それからですね、村道古宇利線林道隣接里道の道路として利用されているところが、私も行ってびっくりなんですけれども、個人有地が道路になっている。売買交渉が昔うまくいかなかったのかわかりませんが、このほうは早目に対応しないと、今後もっと地価が上がっていった場合は、もっと買いにくくなると思います。これも早急にこの地主と相談し、あるいは測量もして、村として買い上げていくことが必要だと思います。これはリゾートホテル、今、古宇利小中学校跡地に建設していますけれども、そこの建設道路としても使われている場所ですけれども、購入を早目にする必要があると思います。いかがでしょうか。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後2時09分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後2時09分)

嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

村長の答弁にもありましたように、用地測量、用地購入がかかわってまいります。今単価については、結構な単価という話も聞いておりますので、この辺はまたすぐ購入というのは厳しいのかなと。調整しながら買える状況があるのか考えながら検討していきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 6番吉田清尊議員。

○ 6番 吉田清尊 議員 そこに以前は船も置いていたということで、船を置かれたら工事車両とか全く通れなくなりますので、早急に対応していただきたいと思います。今度、村道古宇利線付近の村有地の農業用水のため池の里道のほうですね、そのほうが4カ所のカーブを軽減する必要がある場所です。大変車が通りにくくて、拡幅工事とそのT字路の整備を早目に進めていただきたいけれども、いかがでしょうか。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

道路の拡幅工事、T字路の3カ所の工事ということですが、T字路だけの事業もないかなと思っております。答弁にもありましたように、T字路と、路線1つとして事業が採択できるものなのか、この辺を検討していきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 暫時休憩します。 (休憩時刻 午後2時12分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後2時22分)



次に、1 番島袋 誠議員の発言を許します。1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 令和元年第3回今帰仁村議会定例会、先に通告しました一般質問を行います。

質問事項1. 今帰仁村の景況感について。

質問要旨①令和元年7月15日の沖縄タイムス記事にて、沖縄県内自治体の景況感調査が一面で記載されていたが、41市町村中、上向きが23市町村、変わらないが17市町村で、本村は1村のみ「下降している」と答えている。調査や数値に基づいた根拠があるかお伺いいたします。

質問事項2. 第三次今帰仁村観光リゾート振興計画について。

質問要旨①自然景観が残る砂浜、その周辺の保全についてお伺いいたします。

②桜まつりを含めた、今帰仁城跡魅力向上についてお伺いいたします。

③今帰仁村観光大使についてお伺いいたします。

質問事項3. 防災行政について。

質問要旨①ハザードマップに記載されている広域避難所の耐震性、安全性、利便性についてお伺いいたします。

②防災教育についてお伺いいたします。

③平成29年第1回定例会にて、防災士の必要性を提案し、検討するとありましたが、進展はあるかお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 1 番島袋 誠議員の質問にお答えいたします。

今帰仁村の景気判断についてお答えします。令和元年7月15日付の新聞記事で掲載がありました内容については、東京五輪・パラリンピック、訪日外国人に関する全自治体首長アンケートの中で答えたものがあります。オリンピック・パラリンピックを1年後に迎える中で、自治体としての取り組みや訪日外国人受け入れ対応といった設問の中で、1年前と比べた景況感についての回答でありましたが、質問にありますデータ等というよりは、私がふだんから住民との対話などの中で感覚としてお答えしたものであり、具体的なデータに基づいて回答したものではありません。

質問事項2. 第三次今帰仁村観光リゾート振興計画についてお答えします。質問要旨①自然景観が残る砂浜、その周辺保全については、一般公共海岸区域の管理者は沖縄県知事となっています。近年今帰仁村においても無秩序な海岸利用で多々問題が発生していることから、ルールづくりの条例制定は必要なことと考えており、今後沖縄県からの助言及び先進地事例を参考に、条例制定に向け進めてまいります。周辺の保全については、農作物や住宅などを守る壁の役割を果たし、災害を防ぎ、心に安らぎやうるおいを与え、また景観の観点からも重要な働きをする保安林を違法な伐採等によりその働きが損なわれないよう、関係機関と連携を図り保全に取り組んでいきたいと考えております。

質問要旨②桜まつりを含めた今帰仁城跡魅力向上については、同まつりは実行委員会形式で行っており、その内容についても実行委員会で話し合ったうえで決定しています。第12回今帰仁グスク桜まつりにおいては、入場者数がこれまでの最高入場者数となりました。今後も今帰仁城跡魅力向上につながる内容となるよう、実行委員会で話し合っていきたいと考えております。

質問要旨③今帰仁村観光大使については、今帰仁村の魅力を広く村内外に紹介し、村のイメージアップ及び観光振興を図るための今帰仁村観光大使を、本人の同意を得て村長が認証しています。現在3名の方に観光大使として今帰仁村のピーアール活動にご尽力いただいております。

質問事項3. 防災行政についてお答えします。質問要旨①広域避難所の耐震性、安全性、利便性については、現在広域避難所として指定している6カ所のうち、新耐震基準以前の建物とそれ以後の建物が混在している状況にあります。現在、指定避難所及び指定緊急避難場所を含めた全ての避難所について見直し作業を行っているところであり、作業を行うに当たり耐震性、安全性、利便性等を考慮した上で、再度避難所の設定を行っていきたいと考えております。

質問要旨③防災士の必要性についてお答えします。防災士の必要性については、平成29年第1回定例会において同様の質問が行われておりますが、現在、村の防災担当職員は沖縄県主催の防災関連研修会等に参加し、防災の知識を高めていくために取り組んでいるところであり、防災士の資格を有する必要性については検討中であります。今後の展望として、まずは地域において自主防災組織を充実させたいと、その組織のリーダー的役割を担う方等に資格を取得していただくよう取り組んでいければ、より地域での防災への意識も強くなるものと考えております。

○ 座間味 薫 議長 玉城 奎教育長。

○ 玉城 奎 教育長 1番島袋 誠議員の質問事項3. 防災行政についてお答えします。

質問要旨②防災教育については、地震・津波訓練と地震・火災訓練を隔年で実施しております。事前指導として、冷静に行動するため危険箇所、避難場所、避難経路の確認を行い、事後指導として各自の反省を踏まえ災害から身を守るため、日ごろからの備えについて考えさせる取り組みを行っております。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 では質問事項1から行きます。午前中に5番座間味邦昭議員からも同様の質問がありましたので、おおむね理解はしております。何点かだけ違う視点で質問させていただきます。先ほどの答弁で、東京オリンピック・パラリンピック等に関するもので、訪日外国人の点で、訪日外国人が減っているというような答弁があったと思っているんですが、そう考えているかどうか、伺います。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 1番島袋 誠議員の質問にお答えします。

これはデータをとっての答弁ではございませんけれども、午前の5番座間味議員の質問にもお答えいたしましたけれども、一番インバウンド、外国人の観光客の多い今帰仁城跡が平成28年度の30万人をピークに平成29年度が27万人余り、平成30年度が25万人と、この2カ年間で約5万人減っておりますので、それも減っているのではないかと。こっちは数字が出ておりますけれども、そのうち幾らが外国人かということまでは十分把握されておられませんけれども、これまでの今帰仁城跡を訪れる外国人客からして、全体的に減っているのではないかと考えてございます。あと数字は出ておられませんけれども、リカリカワルミ、それから古宇利ふれあい広場も月に2、3回ぐらいは顔を出しておりますけれども、そこの職員と言いますか、そこら辺の話としてということでもあります。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 今帰仁城跡の入場者数から外国人が減っているのではないのかという推測の話なのですが、近年、沖縄の観光客数がずっと右肩上がり伸びて、特に訪日外国人はずっと伸びている状態だと理解しています。ですので一概に外国人が減っているというのも、またちょっと違うのかなというふうに感じてはいるのですが。その点について、答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 1 番島袋 誠議員の質問にお答えいたします。

先ほど申し上げましたように、具体的なデータと申しますか、例えば今帰仁城跡に平成28年度30万人ですから、そのうちの外国人が幾らであったかということまでは把握しておりませんので、これまでの2カ年間で約5万人減っておりますので、かなり外国人の、インバウンドのお客さん等が見えておりましたので、そこら辺からの、あくまでも私が感じたことであります。リカリカワルミ、古宇利含めてですね。具体的なデータは持っておりません。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 失礼いたしました。感覚の問題ですので、これは先ほどあった肌感覚ですので、一概には言えないと思うんですが、それによってまた対策も変わっていくと思いますので、それはそれで今理解いたしました。そこでこちらに書いてある住民との対話でそういうふうに感じたということでしたが、例えば具体的な話で、どのような話でそう感じたかですね。具体的な話があれば答弁求めます。ないのであれば、ないで結構です。答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 お答えします。

具体的なということですが、先ほど今帰仁城跡、リカリカワルミ、それから古宇利ふれあい広場ありましたけれども、その人達も含めてですね、必ずしもその従業員に限定したことではないんですが、そこに来る従業員以外の、例えば古宇利ふれあい広場で商売している人たちもいますので、そういう人たちも含めて住民との対話ということであります。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 ではその点についても理解いたしました。

続いて村長のアンケートで、そう答えていらしたということではあるんですが、このアンケートというのは直接村長に来て、村長が直接出したか、例えばファックスとか郵送とか、その方法ですね、どのようになっているかお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 1 番島袋 誠議員の質問にお答えします。

これは午前の質問でも答弁しましたがけれども、ことしの5月24日付で一般社団法人共同通信社というところから直接届いておりました。その中で、この見出しが東京五輪・パラリンピック訪日外国人に関する全自治体首長アンケートということで来ておりました。設問が18ありまして、設問項目は198ありました。村長が判断して、すぐ答えられるものは答えてきましたし、また関係課長の意見を聞いたほうがいいとい

う場合はそれをして答えてきたんですが、今回かなり、弁解ではないんですが、かなりありましたので、上からですね、私のほうでパッパッパッと○つけたりやってきたんですが、最後のほうに貴自治体の景況感についてお尋ねします。1年前と比べて雇用、産業、出荷額、こういうものがありましたので、そこをきちっと、もうちょっと目を通して細かくやれば、これについてはタイトルが五輪・パラリンピックであつても、ちょっと関係課長とか、あるいはまた村内のこういう事業所とかに聞いて答えればよかったかなと、今反省していますけれども。今後そういうアンケート等については、村長の判断だけで回答できるものはそのようにやっていきたいと思いますが、今後そういうことを村長の判断だけでやって、これがまた沖縄タイムスには、今帰仁村だけということを書いてありますけれども、沖縄タイムスにはすぐ景況感だけ書いてありますので、そこら辺がちょっと今回の回答に対してはちょっと好ましくなかったのかなと、結果的にはですよ、思いますので、今後はこういういろいろなアンケートが来ますので、基本的には私はやっぱり村の考えとか、村長の考え方は広く公開して情報提供したほうがいいという思いでほとんど答えてきましたけれども、今後は質問については村長の一存だけじゃなくて、またこれは全課、あるいは関係機関の情報を収集して回答したほうがいいという場合には、今後は慎重に対応していきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後2時39分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後2時39分)

喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 1番島袋 誠議員の質問にお答えします。

これは村長に来ておりますもので、担当から村長のほうに来ます。私のほうで見て、ほとんど○形式ですが、意見もありますけれども、今回、意見は書いておりません。○をしてですね、これを担当がこの共同通信社に返して、それを共同通信社のほうは、ここに書いてありますけれども、共同通信社に加盟している地方新聞社などに配信しますということは書いておりますので、共同通信社のほうが加盟している沖縄タイムスに配信して、沖縄タイムスの記事になったものと理解しています。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後2時40分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後2時40分)

喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 1番島袋 誠議員の質問にお答えします。

これ見ますと、添付した回答用紙にご記入の上、何日までに下記のアドレスまでご回答お願いします。ということでもありますので、この回答専用アドレスに回答したということでもあります。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 では、これはそういう画面上で、例えば○×とかというふうに行ったか、最初の認識だと用紙に○とか書いたのかなと思ったんですけれども、どちらになりますか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 1番島袋 誠議員の質問にお答えします。

担当から、この文書がそのまま来ておりましたので、これについて1番からこう見て○をつけて、直接私が書きました。誰かが書いて出したということではありません。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 それほど重要というか、その確認なんですけれども、書いたのであれば例えばPDFとかという形にして送ったのか、どちらから、事実確認でもないんですけれども、どのようにやったのかなというのがちょっと気になるので、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後2時42分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後2時46分)

我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 1番島袋 誠議員の質問についてご説明申し上げます。

今、この調査票の返信方法につきましては、共同通信社のほうからまず電子データが送られてきていたものを、まず出力してですね、ペーパー化したものを村長に見てもらって、それを記入してもらったと。それをまた担当のほうでですね、また元々のデータがありますので、それに打ちかえた形で、またメールで返信したということでありました。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 方法については理解いたしました。何と申したいかというのはですね、こうやってチェックできる、村長がチェックするというのもおかしい表現かも知れないんですが、こうやっていろいろな目で触れてできるというのであれば、やはりこういうのは慎重に、そういう景況判断などやらないと、こうやって新聞にドカンと取り上げられてしまって、今帰仁村だけ景気が悪いというふうにもなってきますので、こういうのはやはり慎重にですね、例えば送る側もちょっと気になってやるとか、一番いいのは先ほど答弁にもありましたけれども、いろいろ観光協会、商工会など少し情報交換して意見を出すというのが一番理想かなとは思いますが、その点またしっかりやっていただきたいと思います。

最後に村長、結論、今そういう今帰仁村の景況をどう思っているのかと思ひまして、答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 現在の景況ですけれども、これも調べておりませんので、ちょっとすぐ自信を持って上向いている、変わらない、全体は今の答弁を除いてはですね、そんなに下降しているとは理解しておりません。なぜなら村民所得も前年度より少し伸びておりますし、民泊は少し減っていますけれども、そんなに大幅な落ち込みもないし。ただ昨今建設業協会を中心にして、特に民間の、古宇利初め相当こういう事業がありますので、このインバウンドの部分を除いては、これもデータはありませんけれども、そんなに景気は悪くないのではないかなと考えております。データはないですが、この部分を除いた部分ではそう考えております。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 それで追及するというわけでもないの、安心してください。今、そういう変わらないか、やや上向いているというようなニュアンスでしたが、次から、いわゆるこの第三次今帰仁村観光リゾート振興計画にも、やはり今の現状をどう把握するかというので、また策も変わってくると思

いますので。特に先ほどまた申しましたけれども、新聞報道されることによって、例えば今帰仁村にこれから住もうという方、例えば会社を興そうという方、宿泊業を営もうとする方が、やはり不安に感じてしまうのはマイナスだと思いますので。事実、もしこう感じているのであればですけども、今の回答を聞くとは変わらない、やや上向いているというのであれば、また真実をというか、不安を与えないようなものをしっかり慎重にやっていただきたいと思います。では次にまいります。

質問事項２．第三次今帰仁村観光リゾート振興計画についてであります。まず１番目ですね、自然景観が残る砂浜、その周辺保全についての件ですが、きのう２番議員の上原議員からも、守るべきところ、活用するところのゾーニングの件は理解しておりますので、この辺は触れないで、保安林等の保全についていきたいと思っております。こちらですね、景観の観点から、重要な働きをする保安林を違法な伐採等によりその働きが損なわれないよう保全に取り組んでいきたいと回答がありますが、実際、今村内でそのような違法な伐採等、把握しているところがあれば答弁求めます。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 １番島袋 誠議員の質問に対しまして説明いたします。

現在、３件そういった事例がございまして、引き続き指導も行っている件も踏まえて３件ございます。県の方も間に入っていての指導も行っております。現時点では、３件ということでございます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 １番島袋 誠議員。

○ １番 島袋 誠 議員 今、３件があるというふうに理解いたしました。こちらにも新聞記事なんですけど、７月２７日、これは別に業者を特定するというわけでもなく、新聞のほうも控えていますので特に場所などは申しませんけど、新聞に載りまして、今帰仁村のもので、１９９０年代と現在ですね、２０１９年のほうが大きく取り上げられておりますが、そこで自分の私有地から入れない形のほうの保安林を、やはり違法伐採やっていると取り上げられております。そこらは所有者も変わって、前の所有者がしたものでもまた引き継いでやっている形とありますが、その辺ですね、きちっとそういう違法伐採になっているということを理解してもらっているかですね、村としてどう取り組んでいるか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 質問に対して説明いたします。

まず村長の答弁にもございましたとおり、保安林の重要性、いかに住民、農家等々に迷惑をかけるかということ等を踏まえて、本人に直接指導を行いまして、また県の担当のほうも間に入っていて、直接県のほうからも復旧指導も行っております。顛末書等も添付いたしまして、今後の復旧計画にもサインしていただいて、現在進めているところでございます。ただ復旧に際して、時期が真夏であると、保安林も育成しないということでもありますので、秋口のほうから進めていきたいということでもありましたので、県のほうもそれを確認して、現在その復旧に向けて進めているところでございます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 １番島袋 誠議員。

○ １番 島袋 誠 議員 一度というか、伐採したものはすぐには戻らないとは思いますが、今のところ秋口からそういう元の形に戻していく計画であるということでしたが、いつごろまでにやるめどがつ

いているかですね。全てが同じ高さのものになるというよりは、まず同じ面積にそういう保安林ができるというのは、村としていつごろまでを考えているかどうか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後 2 時55分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後 2 時56分)

久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 説明いたします。

原則的に原状回復というのが示されておりますけれども、ただいきなり大きな木を、大木を植栽しても枯れるということでございますので、やはり苗と言いますか、1 m程度の苗のほうが強いということもありますので、その点を踏まえて、それが活着するまでしっかりと管理していただいて、できる限り元の現状に回復してもらおうと。機能が回復するというのが原則だと思われまますので、しっかりと保安林としての機能が回復するまでというのが、考えているところであります。ただそこまで何年かということとなりますと、ちょっと答えにくいところでもありますけれども、違法に伐採しているわけでございますので、元あった形に戻していただいて、その機能を果たすよう戻していただくというふうに指導と言いますか、指示はしております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 そうですね、期日、いつぐらいまでに元通りになるというのもやはり難しいとは思いますが、やはり目標値というんですか、ある程度、やっぱりいつまでにこの面積はやる、大きくなったら元通りになるというふうなシミュレーションをしてもらって、しっかりとしていただきたいです。そういうのも、以前の所有者にそういう指導を行ったということではあったんですが、やはり定期的に見ないと、やはりまたこうなってしまう可能性も、逆にもっと広がってしまう可能性も含まれていると思いますので、しっかり取り組んでいただきたいと思っております。そこでですね、この話とはちょっと別の問題になるんですが、保安林のほうに、里道があるところがありまして、その里道をあける際、近隣住民から里道をあけるという申し出があれば、里道をあけるというふうに理解はしているんですが、その里道のあけかた、この保安林に接するところについて、今ちょっとこれはどうかなと思う箇所が何カ所かありまして。その点について、もともとあった道ですからあけるというのも、もちろん理解しています。ですが、どうやってあいているか、昔はどうだったという点で、村が許可して里道があいていくと思いますが、その点ですね、許可してどの程度までやっていいよとかというものです。例えば写真を撮ったり、地元の方に聞いたりしているかどうかですね、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 1 番島袋 誠議員の質問に対して説明いたします。

今回、長浜のところで里道をあけたということかと思いますが、実際、里道を村であけることはなかなかありません。住民から要望があれば、村があけないといけないというのが現状でありますけれども、今回ののは相手側があけると、測量もしてあけるということでやりました。村の監視不足もありまして、ちょっと大きな高低差がありまして、今、道に合わせてあけた現状で今 3 m ぐらい下がっているんですかね。この辺もちょっと役場の監視不足だったのかなと反省しております。先月ですか、住民の方にも説明

会を持ちましたが、今後はまた住民と調整しながら、今後の里道のあけ方を考えていきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 ふだん住民が行かない、行く人は行くんですけども、余り目が行き届かないところですので、知らなかったという住民もいたと思います。その住民説明会のときにもちょっと言ったんですが、その里道の幅をしっかりと測量して、その幅どおりだったと思うんですが、高低差の件もありました。これはまた砂を埋め戻してやっていく措置がとられて行くと思います。人工物でですね、今ネットで両方遮断している状態が、いかななものかなというふうに私は感じているんです。やはり自然なままの、以前の里道にはなかったものが、こうやってネット等で、フェンスで遮断されてしまいますと、その中で生きている、いろいろ写真もありますけれども、ヤドカリ等ですね、ここで分断されてしまうんですね、人工物で遮られてしまうと。その点について、どう見解を持っているかお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 嶺井雄二建設課長。

○ 嶺井雄二 建設課長 説明いたします。

里道をあけた時点では、サイドのほうが崩れないということで、相手方も好意を持ってネットをしたというのを聞いております。今回は現状回復ということで、字からの要望もありますので、現状に近づけるように砂を入れていきたいと考えております。ネットについても、抜いてですね、ネットをやった行為は先ほど申しましたように、側が崩れないようにということで、現状使うという方向でネットを張ったということなので、現状に戻すためにはネットを抜いて砂を埋めていきたいと考えております。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 理解いたしました。やはりこの第三次今帰仁村観光リゾート振興計画にも砂浜の保全がしっかりとうたわれておりますので、ある意味先人たちが残してきた砂浜ですね、今帰仁村は沖縄県の本島の中でも非常に手つかずの自然が多いということで、村民も知らないぐらい恵まれたところがありますので、しっかりと残すところは残す形でしていただきたいと思っております。この点は終わります。

続きまして質問要旨②桜まつりを含めた魅力向上ですね、こちらの答弁でほぼ桜まつりに触れておりますので、今帰仁城跡の入場者数等については、また後日やっていきたいと思えます。桜まつりの件ですね、これまで最高入場者数と去年なって、今後も今帰仁城跡魅力向上につながる内容となるよう実行委員会で話し合っていきたいと考えておりますとあります。今年度が第13回今帰仁グスク桜まつりになりますが、去年と同様の入場者数が見込まれるかどうか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 質問に対しまして説明いたします。

見込まれるかと言われれば断言はできませんけれども、やはりその実行委員会の中でしっかりと誘客するような内容を話し合って、近づけていきたい、もしくは去年以上に入場者数がふえるよう頑張っていきたいところであります。また今回、期間を少し短くしております。その理由といたしまして、短くすることによって経費を節減し、さらに浮いた経費をライトアップに持っていこうということで実行委員会の中で決定いたしました。それを踏まえて、今回どちらかと言えば賭けと言いますか、それに向けて今進めて



いるところでございます。なので議員おっしゃるふえるのかと言われれば、期間が短くなる分リスクがありますけれども、その分内容を濃くすればしっかりとした結果が出るのではないかというふうには考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 内容を濃くすればふえるんじゃないかというような今の説明でしたが、私もちょっと実行委員会というか、実行委員会で話し合われたことを観光協会の発信ですか、今回短くなりましたというふうな情報を見ての今の質問なんですが、今までの16日間から9日間になるわけですね。9日間になると、実質5万人来ているとしまして、平均でも5,500人ぐらい来ないといけないんですが、平日も含めての今5,000人ちょっとになるんですが、イベント向上でやるということなんですが、現実的に可能でしょうか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 質問に対しまして説明いたします。

これまでの平均をとりますと、平日で大体3,000人程度、土日で5,000人程度なんですけれども、その平日のイベントと言いますか、ライトアップを集中する周知、あとももちろん天気にもよりますので、安易な考えでできるとは言えませんが、もちろん天気等の運もありますが、そういった中でイベントをしっかり周知すれば、近い数字はいけるのではないかと考えております。ただ断言するには、今はちょっと控えたいと思っております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 そうですね、結構厳しい数字が宿題というか、あるかなというふうに感じているんですが。例えば今回減らして、もし大幅に半数なり6割なり、もし日にちの計算になるとそれも予想されるわけですね、2万5,000人とか3万人弱というのも予想されるんですが。そうなった場合、先ほど観光のマイナスの要因として、その今帰仁城跡の入場者数が平成28年を境に5万人も減っている状態なんですね。去年が25万人、それでことさらに減ってしまうと、村の本当に財政的にも大きなもの、この城跡の入場者数、自主財源というか、収益としても、予算もある程度組んでいると思いますので、影響も出てくるかと思われそうですが。仮定の話なんですけど、こうやっても少しなくなった場合ですね、次年度以降そのまま継続するか、また元に戻していくか。さらにその16日間だったものを2週間とプラス2日、土日2日も、今減っている状態ですので、1週間伸ばすというのも有りじゃないかなというふうに思っておりますが、4週間ですね。例えば1月の中旬から始めて、2月の第2、これぐらいやるぐらいの策で、今帰仁城跡の入場者数をふやすという考えもあるのではないかなと思っております。その点について、見解をお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 質問に対しまして説明いたします。

日数を今後どうするかということ、今回の結果を踏まえてありますけれども。まず村長の答弁にもございましたが、実行委員会形式で決定しておりますので、その中で議論をしていただくということがまず1点と、費用の面が議員のほうからありましたけれども、これは一括交付金を活用して行っている事業でござ

ざいまして、一括交付金上の目標としては4万5,000人が平成30年度の目標でありました。それを5万2,000人としておりますけれども、これまで2,000人ずつふえてきておりますけれども、まだ一括交付金の中での目標は十分達成されているということでございます。なので、落ち込み具合にもよりますけれども、ある一定程度の確保と言いますか、入場数があればですね、交付金上は何ら差し支えないものだというふうには考えております。ただ議員がおっしゃるとおり落ち込みがひどいようでしたら、このあたりは十分実行委員会の中で議論していただくということになるかと思えます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 仮定の話ですけれども、そうするとまた考えるということでありました。実行委員会形式をとっておりますが、実行委員長が村長で、事務局は経済課だと思っておりますので、ぜひこちらでもうたわれている今帰仁城跡の魅力化向上でもありますので、今ずっと入場者数が落ち続けておりますので、その回復の核になると思っております。やはりこの今帰仁城跡桜まつりに来られるお客様は、結構ライトアップを目的に来られていると思います。ライトアップの費用が結構、設置、撤去で人件費等がかかってくると思いますので、この点からもですね、一度設置して片づけるまで、撤去するまで短い期間より、やはり長い間設置したほうが、そういうコスト的にもいいんじゃないかなと思っております。また今回は決定したということでもありますので、なかなか覆るのは難しいのかなと思っております。ですので、またしっかり、今回開催してからですね、しっかり検証してまた考えてやっていただきたいと思っております。

では続きまして、質問要旨③の今帰仁村観光大使についてですが、この第三次今帰仁村観光リゾート振興計画に直接かかわっているわけではないですが、村の広報の8月1日付ですか、第三次今帰仁村観光リゾート振興計画を策定しました。そのような計画のもと村のピーアールに力を入れるため、今帰仁村観光大使の認証式が行われました。とあって、この時点で2人目で、また次に3人目もありますと記事に載っておりますが、この今帰仁村観光大使の役割はある程度説明はあるんですが、この役割ですね、あと例えば報酬等は出ているのか、任期が決められているのか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問に対して説明いたします。

役割と言いますか、任務に関してでございますけれども、観光大使の設置要項からの任務なんですけど、まず広く村内外に村の魅力を紹介し、イメージアップに寄与すること。2. 村の要請に基づきイベント等への協力及び支援を行うこと。3. 村のイメージアップ及び観光振興に資する提言を行うことが大きな任務となっております。あと報酬につきましては、大使に関しては無報酬でございます。任期につきましては、大使の任期は3年とします。ただし再任は妨げないということでございます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 役割等、報酬等、任期等も理解いたしました。報酬は出ていないということで、ボランティアというか、村の思いということで担っていただいているということなんですが、細かい点なんですが、3名方とも県外にいらっしゃいますが、その際の交通費なども支払われていないということではよろしいでしょうか。お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後 3 時16分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後 3 時17分)

久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 質問に対しまして説明いたします。

費用ということですが、先ほど任務にありましており、主に村外に魅力発信、村の魅力の紹介ですね、イメージアップに寄与することです。特段こちらのほうから旅費を支出するとかという事は行っておりません。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 理解いたしました。

では次に、こちらに本人の同意を得て村長が認証とありますが、この決め方というか、どちらからか推薦があってやるのか、選考基準なりですね、決め方がどのようになっているか、その過程をお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問について説明いたします。

その過程ということなんですけれども、ある程度、この活動をされている方というのは有名な方でございますので、それをある程度お調べして、同意を得て、庁議等で確認をして、それをもって最終的に村長が認証するというところでございます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 今説明がありましたが、ではこのお三方ですね、それぞれ違うと思うんですが、名前が上がってきた、その名前が上がってくるのは、何か推薦があったり、例えば課内というか、係内で決めているか、そういう推薦があったら考えるのかとかですね、そういう具体的ななり方というか、この過程の説明を求めます。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問に対しまして説明いたします。

特段推薦書とか、そういったものではなく、やはりこの方の活動実績等を踏まえて、先ほど申し上げましたけれども庁議に諮りまして、最終の判断を村長にさせていただいて、認証していただくと。重なりますけれども、本人の同意を得て大使としてご尽力いただくということにしております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 今の話だと、課内、係内で検討しての最終的に村長の認証かなというふうに、今説明を受けて感じたんですが。こちらに写っている、例えば商工会ですね、あと観光協会等、その観光大使を上げる際に話に加わっているかどうかですね、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問について説明いたします。

特段、大使の要項の中に組織というものがないですね、認証に関しては村長が認める者とありますので、その中で認証しておりますので、特段商工会とか、そういった観光協会に関しては協議の場には入っ

ていないということでございます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 これですね、観光大使なんですね。やはり観光協会とかの意見等があってもいいのではないかと考えておりますが、今の話だと、どういう過程で上がってくるかも、しっかり話し合っているということではあるんですが。例えば推薦等あれば、どちらに伝えて話になっていくか。今のところそういう決まりというか、そういうのが、推薦も受け入れるとかあれば、あと何名まで予定しているかですね、3 名で終わるのか、随時、例えばもう 10 名でも 20 名でもやっていくのか、今考えがあれば伺いたします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 質問に対しまして説明いたします。

庶務に関しては、商工観光係において担っております、その処理も行っております。人数は何名でもいいのかということでもありますけれども、やはり何十名もいては少し大使としての何と言いますか、役割と言いますか、薄れるような気がしますので、ある一定の人数があれば十分ではないかと私自身考えております。また議員おっしゃるとおり、その推薦過程の中で観光協会もしっかりその中に組み込んでいくことも今後検討していかなければならないことだというふうには考えております。もちろん核となる観光協会でございますので、踏まえて今後検討していきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 ほかの町村等では、観光協会がそのまま任命して観光大使となっているところもありますので、ぜひ観光協会と名前もついていますので、観光に特化したところだと思いますので、ぜひ選考にあたっては一緒に共有していただきたいと思いますと考えております。

もう 1 つ伺いたしますが、これまでに村民等ですね、今までもこういうしっかりした仕組みはなくて、何と言うんですか、観光大使を任命という形であるんですが、口頭でも書面でも、村民なりほかの方から、この方を観光大使にしたらいんじゃないかというようなものがあつたかどうか、伺いたします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後 3 時 25 分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後 3 時 26 分)

久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問について説明をいたします。

これまで推薦があつたかという趣旨の質問だったと思いますけれども、特段推薦が、村民からの推薦はなかったものと認識をしております。設置要項に基づいて、その中での村にゆかりのある方とか、産業、歴史、文化、芸術においてゆかりのある方等を現在県外のほうで、しっかり村のピーアールをしていただける方を中心に認証していただいたということになっております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 理解いたしました。まだこれからそういう推薦等のあれも決めていくというふうに認識いたしましたので、ぜひですね、ある程度の枠を決めてもらって、村民にも幅広く、目的が今

帰仁村というものを発信してもらおうということだと理解しておりますので、ぜひ広げてですね、推薦はもらう、そこで判断するというふうに、しっかりしたものをつくっていただけたらと思っております。ひとつ提案なんです、観光大使にこの人をしてくださいというのではなく、観光大使と似たもので、観光大使は県外の方が今帰仁村をピーアールするとありますので、ぜひふるさと大使というものをまた創設してもらえたらというふうに考えております。ふるさと大使とは、村内出身で村外、県外、国外等で頑張っている方、今帰仁村をピーアールしてもらえそうな方を、ふるさと大使というのも考えてもいいんじゃないかなと思っております。そうしたら住んでいる、例えば小学生とか中学生とかですね、頑張っって有名になって、今帰仁村ふるさと大使になろうという目標も出てきたりすると思いますが、その点についてお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 謝花良竹副村長。

○ 謝花良竹 副村長 今の提案ですね、今帰仁村をピーアールするという件で観光大使というのを任命して、ピーアールします。今おっしゃった提案のふるさと大使というのも、今後検討して、今帰仁村がいろいろな方面でピーアールできることを検討していきたいと思えます。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 ぜひ村をピーアールするという目的で一緒だと思いますので、ぜひ前向きに考えていっていただきたいと思っております。

最後に質問事項3の防災行政について行います。現在、このハザードマップ、防災マップにある広域避難場所、耐震性、安全性、利便性についてお伺いしたんですが、6カ所のうち新耐震基準以前の建物も混在している状態とありますが、具体的にこの棟は、例えば昭和55年、昭和56年というふうにもあると思いますが、それが何カ所、校区ごとでいいです。6カ所のうち幾つになっているかどうか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 1 番島袋 誠議員の質問についてご説明申し上げます。

広域避難所についてでございますけれども、防災計画には6カ所現在は載っていますが、そのうち古宇利小学校が、コルディオが今、保養施設をつくっているということで、取り壊しになっていて、今現在、防災計画に載っているのは6カ所ですけれども、現にあるのは5カ所でございます。その中で、兼次小学校体育館ですか、こちらが平成9年、それから今帰仁小学校が平成12年、天底小学校が昭和63年ということで、ここまでは昭和56年以降に建築されているということであるんですけれども、旧湧川小学校体育館が昭和50年、それから村の中央公民館が昭和50年建築ということで、この部分については旧耐震基準になっているということでもあります。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 では昭和50年代が2カ所あるということでありましたが、今、今帰仁小学校が平成12年であるというお答えでしたが、それは体育館の話ですか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 ただいまの質問についてご説明申し上げます。

今、広域避難所として指定しているもので想定しているのが学校の体育館ということになっておりますので、議員がおっしゃられた体育館ということでよろしいと思います。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 中央公民館は体育館がありませので、校舎、現実的には体育館になると思うんですが、こちらでは避難施設として小学校というふうになるんですね。では小学校のその建物自体は避難場所として捉えてないかどうか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後 3 時33分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後 3 時35分)

我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 ただいまの質問について、説明申し上げます。

今指定されている広域避難所についてですけれども、防災計画の資料編の中には、ホール、体育館等ということでございまして、ホールについては中央公民館を指すんだと思いますが、各学校については体育館施設ということであります。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 こちらも、ちょっときょう新聞の記事が多いんですけれども、8月10日の沖縄タイムスにあった記事なんですけど、県内公立小中学校の耐震化ということで、今93%進んでいるということで、今帰仁村は87%なんですね。3つ耐震化を満たしていないところがあるというふうに記事がありました。沖縄県で93%で、全国でも41位と進んでいない状況なんですけど、いろいろな理由があって、統廃合のところも考えている等ですね、あと学校の授業の、学校を建てる際の授業の平準化等ですね、財政上の都合等で進んでいないというのがありますが、こちらやはり公立の学校の建物、約50%がやはり避難場所として指定されておりますので、この体育館だけの基準でいいのかなというふうにちょっと疑問に感じております。この小学校の建物は、避難所の耐震の基準にはないという考えでよろしいかですね、再度お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。 (休憩時刻 午後 3 時38分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後 3 時38分)

我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 ただいまの質問について説明申し上げます。

今、島袋 誠議員がおっしゃられた、教室自体が耐震構造上の問題で指定されていないのかということでしょうか。これについては防災計画上、教室自体を耐震構造上でもつ、もたないということで指定している、していないではなくて、学校の体育館施設のみ今指定しているという状況にあるということでございます。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 私も、そんなに詳しくはないので、今の説明で、今の段階では終わりたいと思います。次にまいります。

防災教育についてですね、今、学校で子供たち、児童生徒がですね、結構防災の、特に9月1日が防災

の日でありますので、その日近辺中心にやっているのかなと思っております。学習指導要領にも防災教育というのはうたわれていないとは思いますが、ぜひ子供たちから逆に大人に教えるような形もとれるのかなと、個人的に考えております。大人をいろいろ集めて、勉強会開くなり、そういうのを開いても、そんなに国保の説明会等でもあったとおり、結構告知、周知しても余り集まらない状況もありますので、ぜひ子供たちから大人にまで広げていくのも手じゃないかなと考えておりますが、この児童生徒の教育だけじゃなくて、家庭に広めていけるような教育等を考えていないかどうか、お伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 玉城 奎教育長。

○ 玉城 奎 教育長 ただいまの1番島袋 誠議員の子供たちから大人へ防災意識の高揚ということでもあると思うんですが、非常に視点としておもしろいなと聞いておりました。というのは、学校現場では大人が避難することはまず想定していなんですね。それで子供たちが自分の命を自分で守るということで、地震であるとか火災であるとか、避難訓練するんですが、そこで子供たちへの教育の視点として、子供たちが常々避難、防災意識を持つために、キーワードとして「おかしもち」とかやりますよね。それは大人は知らないと思うんですよ、ほとんどの大人が。「おかしもち」はどういうことかという、例えば火災であるとか地震が起きたときに、「おかしもち」の「お」は「押さない」であるとか、「か」は「かけない」であるとか、「し」は「しゃべらない」であるとか、そういうことを学校で基本的な避難行動様式を学んだ子供たちが、それを地域の大人、身近な大人の方へ還元することによって、何か大きな災害があったときに、被害を最小限に食いとめることができるという視点からすると、非常にいいなと思いますので、そのあたりはいわゆる方法としては、各地域のPTA活動の中で子ども会もありますので、そこで逆に計画してやっていただくと、本当にいい考えかなと思いましたので、ぜひ進めていただきたいなと思います。以上です。

○ 座間味 薫 議長 1番島袋 誠議員。

○ 1番 島袋 誠 議員 とともにまた考えていこうかなというふうに感じました。やはり今教育長が言ったことが、やはり学校現場にいたので、この子供たちの意識が、結構高いので、親が逆にこの避難所を知る、高台はどこに行くというのも非常に親たちも勉強になると思うので、PTAを含めですね、また一緒に考えていければと思っております。

最後に質問3の防災士の必要性についてですが、今、この避難所等にあったとおり、やはりちょっと曖昧なんですね、そういう点が、この防災についてですね。本当に事が起こったときにどう考えるか、どう動くかというのがあると思いますので、ぜひ専門家である防災士はぜひ必要なのではないのかと考えておりますが、答弁ももらっているんですが、もう一度見解をお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 我那覇隆文総務課長。

○ 我那覇隆文 総務課長 ただいまの質問についてご説明申し上げます。

防災士の件については、たしか平成29年3月議会での誠議員の質問の中で出てきたものだと思います。その際には、職員の研修の一環で防災職が考えられるかということで、検討しますということで、前総務課長がお答えした経緯もありますが、この件についてですね、うちの防災担当との話の中で、防災士というのはかなり防災に対しての専門知識を持って、地域での啓発活動を中心にやっていくというところが

きな役割だということでもあります。その中で、やはり今帰仁村といたしましては、やっぱり地域の自主防災組織を強化していったらいい、そこの中でやはり地域、地域に防災士がふえていけばというのが一番理想だと考えます。その中で、やはり職員の中から研修の一環でということで防災士の資格を取るというのも非常にいいことではあります、もっと自主防災組織の中での位置づけ、意識づけ、その中から結果的に防災士という形で今帰仁村に何名か来てもらって、そこから皆さんで防災を考えるというふうなことができればと現時点で考えております。

○ 座間味 薫 議長 1 番島袋 誠議員。

○ 1 番 島袋 誠 議員 前と同じようなお答えをもらったんですが、全国に17万人ほど防災士がおりまして、沖縄県には623名、少ないんですが、愛媛県等、県庁職員、市の職員など、非常に取り組んでいるところもありますので、またぜひ参考にしながら、また提案していきたいと思います。以上で終わります。

○ 座間味 薫 議長 暫時休憩します。 (休憩時刻 午後 3 時47分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。 (再開時刻 午後 4 時00分)

次に、7 番玉城みちよ議員の発言を許します。7 番玉城みちよ議員。

○ 7 番 玉城みちよ 議員 皆さん、こんにちは。議長の許可をいただきましたので、令和元年 9 月定例議会一般質問させていただきます。しっかりと村当局の前向きな答弁で、ユタシクおつき合ください。質問に入ります前に、昨日、9 月11日の翌日質問ということで、一言所見を述べさせていただきます。

9 月11日は、世界中で誰もが震撼を覚えた 9.11、アメリカ同時多発テロは忘れられない出来事ではないでしょうか。今から18年前の2001年 9 月11日朝、米国におきまして4機の旅客機がテロ集団にのっとり、ニューヨークの世界貿易センタービルに2機、アメリカ国防総省本庁舎に1機が衝突、炎上いたしました。世界貿易センターのツインタワーは、衝突の衝撃とジェット燃料による爆発後、炎上のダメージを受け全棟完全崩壊してしまいました。1 機めの旅客機がツインタワー北棟に衝突した際、まだ世界中の人々は当時、航空機事故だと思い、その様子をテレビにて報道されていました。しかし現場の光景が国際中継されるそのさなかに、2 機めが南棟に激突するニュースをリアルタイムで報道されたのを鮮明に覚えています。ツインタワーの崩壊の影響で周辺のビル群や地下鉄、そしてバス、トレインも崩壊し、甚大な被害と貴い命が失われてしまいました。テレビ画面の向こう側が、まるで映画のワンシーンでも映し出されたような錯覚を覚え、言葉を失ってしまう衝撃な事件でもありました。9.11の半年後に、アメリカワシントンDCの桜まつりパレードに出演予定を控えていた本村の琉球舞踊チームやエイサーチームなど、文化団体の子供たちが、テロの衝撃と渡米の断念で流した悔し涙が同時に思い出されます。テロから2年後、保護者からの提案で世界貿易センターの跡地であるグラウンドゼロへ出向き、テロで犠牲になられた多くの方々へ、鎮魂の祈りと奉納演舞を本村の22名の子供たちが届けることができませんでした。改めて9.11テロの被害に遭われた方々のご冥福を心より祈り、二度と繰り返されることのないよう平和の大切さや命の尊さを伝えていきたいと思います。それでは9月定例会に当たり、さきに通告いたしました3点について質問いたします。

質問事項1. 特定健診について。



質問要旨①生活習慣病全般の予防、発症、重症化を抑制する意味においても重要な役割を果たしている現在の特定健診ですが、昨年の受診率についてお伺いします。

②受診率向上や普及啓発強化の取り組みとして、受診率の高い区や、健康づくりに積極的に取り組んでいる区を評価し、報奨を設けるなど、区へのインセンティブ導入事業を村として取り組む意向についてお伺いします。

質問事項 2. 幼児教育・保育の無償化制度について。

質問要旨、2019年10月から「幼保の無償化」がスタートしますが、無償化の年齢は一部に過ぎず、さらに給食費の実費徴収による保育現場のさらなる負担増や混乱も懸念されています。本村の子育て世代の定住促進の対策として、子供の成長に必要な保育の一つである給食について、保護者負担ではなく無償で行うべきと考えますが、見解をお伺いします。

質問事項 3. 水難事故防止対策について。

質問要旨①海における水難事故防止対策について、村内の小中校の学校での防止対策についてお伺いします。

②水難事故に対して、防止対策及び発生後に対する行動についてお伺いします。

以上、二次質問は議席から行います。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 7番玉城みちよ議員の質問事項 1. 特定健診についてお答えします。

質問要旨①昨年の受診率については、対象者数2,441人中、受診者数1,050人で43%となっております。質問要旨②行政区へのインセンティブ事業を村として取り組む意向については、現在取り組んでいる市町村の情報を踏まえ、検討してまいります。

質問事項 3. 水難事故防止対策についてお答えします。質問要旨②水難事故に対して防止対策及び発生後に対する行動についてですが、村では水難事故防止を目的とし、関係機関をもって構成された「今帰仁村水難事故防止協議会」を設置し活動を行っております。今後も構成機関との連携を密にし、目的達成に向け活動を行ってまいります。

○ 座間味 薫 議長 玉城 奎教育長。

○ 玉城 奎 教育長 7番玉城みちよ議員の質問事項 2. 幼児教育・保育の無償化制度についてお答えします。

ことしの10月より3歳から5歳児の「幼児教育・保育の無償化」がスタートいたしますが、保育料の中に含まれていた副食費については、これまでどおり保護者の実費負担となります。これは現在も保護者から実費で徴収している教材費や主食費と同様、副食材料費等についても、「保護者が負担する」という国が示している考え方を維持するものであります。そのため、本村において給食費を含めた幼保無償化の拡充は、現在のところ考えておりません。ただし年収360万円相当未満の世帯の子供及び第3子以降の子につきましては、副食材料費相当額が免除されます。

続きまして質問事項 3. 水難事故防止対策についてお答えします。質問要旨①の海における水難事故防止対策について、海水浴シーズン前に県水難防止推進協議会からの「水難事故防止呼び掛け事項」に基づ

いた指導、水難事故防止ポスター作成及び水泳学習時間での注意喚起を行っております。また教職員における校内研修として、AED研修、心肺蘇生訓練等を行っております。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 先ほどの答弁で、本村の受診率については理解いたしました。それでは本村が目標とする受診率の設定が設けられているのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里政有福祉保健課長。

○ 宮里政有 福祉保健課長 ただいまの7番玉城みちよ議員の質問についてご説明いたします。

第2期データヘルス計画において、健診受診率及び保健指導率の目標が設定されております。目標の設定につきましては、平成30年度より平成35年度までとなっております。健康受診率では、平成30年度で50%、平成35年度で60%までとなっております。保健指導率については、平成30年度80%から、平成35年度90%までと目標値が設定されております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 目標受診率については、理解いたしました。それでは3年間未受診者への訪問や、受診強化策はどのように図っているのかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里政有福祉保健課長。

○ 宮里政有 福祉保健課長 ただいまの質問についてご説明いたします。

以前は、5年以上未受診者への全戸訪問を行っておりました。現在は行っておりませんが、国の方針に基づき効果的、効率的な未受診者対策を実施し、糖尿病重症化予防の対象者で健診未受診者への専門職による受診勧奨を行っております。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 訪問のほうはされていないということなのですが、それでは特定健診保健指導の実施状況や、検査再通知を受け取った村民の病院受診率がわかりましたらお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里政有福祉保健課長。

○ 宮里政有 福祉保健課長 ただいまの質問についてご説明いたします。

平成29年度の特定保健指導率は82.3%の法定報告値となっております。平成30年度速報値で51.2%、8月21日時点となっております。糖尿病重症化予防の取り組みで、要医療者の対象者へ受診勧奨を行っております。そのうち84.6%が医療受診につながっているところであります。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 病院受診率に関しては理解しました。では現在、健診受診後に結果を保健師や栄養士、看護師らにより手渡しの丁寧な詳細説明を行っていますが、果たして目標を達成するに当たって、現在の専門職の人数で十分な配置人数なのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里政有福祉保健課長。

○ 宮里政有 福祉保健課長 ただいまの質問についてご説明いたします。

専門職の役割であります保健指導率、特定保健指導、糖尿病重症化予防等については、目標値のほうは達成されております。引き続き目標を達成し、住民の健康保持増進、国保医療費の適正化を実現するため

には、行政職、保健師の配置があれば一層効率的に目標値の達成率が伸びるものだと考えております。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 では先日の決算質疑においても、代休補充ができていない旨の答弁もありました。早急に職員補充の対策をとっていただきたいと思います。現在、本村の限られた財源の中で、住民一人ひとりの収入を、いきなりふやすには無理があると思います。そこで唯一支出を抑えるには、住民や職員一人ひとりの意識の持ち方で、本村の大部分を占める医療費の削減につながると考えます。受診率のアップに向け、担当課のみの問題として捉えるのではなく、全庁全課を挙げてピラやチラン配りなど、特定健診出発式などを行うのもひとつのピーアール方法と考えますが、見解をお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里政有福祉保健課長。

○ 宮里政有 福祉保健課長 ただいまの質問についてご説明いたします。

市町村の情報収集を踏まえ、全課でできることがあれば協議、調整してまいります。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 県内での受診率が高いのは、東村と認識しております。では本村において、どの字が受診率が高いのかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里政有福祉保健課長。

○ 宮里政有 福祉保健課長 ただいまの質問についてご説明いたします。

受診率が高い字につきましては、運天区、越地区、渡喜仁区等になっております。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 受診率の高い字に関しては、理解いたしました。実は近隣の名護市においては、受診率向上に向けおもしろい取り組みをされておりました。人口の似たような字を5地区に分け、受診率の高い字を表彰しているようです。地道に継続することで、現在では区民に浸透し、受賞を目指して区民同士の声かけにつながっていると話していました。県においても、市町村へのインセンティブの取り組みを行っていますが、先日名護市のほうの健康増進課を尋ねましてお話を聞きましたので、少し紹介させていただきます。名護市のほうでは、受診率の高い字にこういう形で健康診断の出発式を広場で行う際に、昨年度の受診率の高い字に、区に対してこういうふうに TENT を、しっかりと健康増進課と入っております、寄贈という形で、受診率向上地区というふうにも入っております。こういう形で5地区に分け、TENT を差し上げていると。そのTENT をもらった区民から区民に広がり、またそういうふうに通診率のアップにつながっているということでした。職員から丁寧に教えていただいたんですけども、ちなみにこれが万一2年続いて受診される字が同じ字であればどうなりますかと確認しましたら、その場合は特別賞として設けてあると。その際に、2万円分の区民の公民館で使えるような健康グッズを差し上げているということでした。さらに健康ポイント制度というのを設けておりまして、こういうふうなスーパーであったり、あちこちでもらうような印鑑を押すようなカードなんですね。その際に、カードに特定健診を受けられた方、または人間ドックを受けられた方は50ポイントの所で日付を書いていただくと。がん検診、婦人検診、そのあたりの精密検診を受けていただいた方には20ポイントの日付を入れていただくと。これはあくまでも個人申請というふうに言っていました。さらにいいところは、名護市が主催するやんば

るツーデーマーチの参加であったり、ツール・ド・おきなわ、あと名護ハーフマラソンへの参加、さらに名護市が主催する健康講演会に行かれた場合には、10ポイントなどが追加されますよと。これで100ポイントたまりますと、健康増進課のほうに住所、名前を入れて、抽選で名護市営市場の商品券にかわるということでした。地域と連携をとったこの健康づくりのポイント制度、これにも大変感動を受けてまいりましたので、ぜひ今帰仁村でまた取り組めるものがあれば、検討のほうをお願いします。本村も区へのインセンティブは、住民の健康づくりの意識に高くかかわってくると考えますが、前向きな導入に向け、再度お伺いします。この制度には予算が伴いますので、村長、再度お伺いします。村長もご存知のように、村民一人が生活習慣病の重篤化などから透析を受けた場合、年間4、500万円の医療費が支払われていきます。それを考えても、年間一張の TENT は安くつくと思いますが、早期の導入に向け、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 喜屋武治樹村長。

○ 喜屋武治樹 村長 7番玉城みちよ議員の質問にお答えいたします。

特定健診の受診率については、先ほど答弁したとおりで、43%で過半数にも達していない状況であります。やっぱり受診率を上げることが病気の重篤化を防ぎ、早期発見早期治療で医療費の抑制につながるということは十分理解しております。目標設定として、50%から60%に設定しておりますけれども、相当な取り組みを強化しないと、この目標もそう簡単に達成できるものではないと思います。そして保健指導についても課長から説明がありましたように、80%から90%ということで、これも高めの設定であります。現在取り組んでいる市町村の情報ということで答弁しましたけれども、具体的に近くの名護市でいろいろな、具体的な、また積極的な取り組みもしているということで、先ほど提案もありましたので、担当課にもう少し具体的に情報を収集して、今帰仁村に見合ったようなものをこういう方法でやったほうがいいのかということで、担当課のほうで十分検討して、こういう方法を今帰仁村で導入したほうがいいのかというふうな具体的な提案があれば財政上の検討もして、実施する方向で検討をしていきたいと思っております。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 ただいまの答弁で、インセンティブ導入に向け前向きな答弁をいただいたと捉えさせていただきます。村民一人ひとりの健康が、本人への一番のご褒美、そして大事な家族へのご褒美、ひいては村への大きなご褒美へとつながります。昨年若くしてがんの村内友人二人を見送り、ことし1月は同期の友人を見送り、さらには現在苦しい抗がん剤治療に向き合う方もいます。それぞれ本人や家族が第一声で発するのが、健診を受けておけばよかった、受けさせておけばよかった、の後悔の一言なんですね。健診を受けることで早期発見、ある程度の重篤化は防げると思います。現在まだ、今年度の特定健診を今週土曜日と11月10日実施しておりますので、村民初め大事なご家族、親戚、友人、ご近所に声かけ運動を全課の職員一同、一丸となって実施していただきたいと思っております。

続きまして質問事項2. 幼保教育無償化について。今回の幼保無償化について、保育料は無償で対象は3歳以上、また副食費は保護者実費負担、そして基準の年収相当額以下の世帯については免除など、制度が非常に複雑で保護者の方、施設の方は混乱しているのではないかと思います。午前中の同僚議員からもありましたが、中には給食費を含む保育料全額が10月から無償化になると思っている保護者もいると聞いておりますが、村では制度の周知をどのように行っているのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 7番玉城みちよ議員の質問についてご説明いたします。

村の周知の方法なんですけれども、まず村のホームページ、村広報紙、また施設、幼稚園、保育園施設にはポスターの掲示なども行っております。また保護者に対しても、その制度がわかる資料の配布をしております、あしたなんですけれども、9月13日にはコミセンホールで保護者説明会などを開催して、その制度の周知を図っていくということで予定しております。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 ただいまの答弁で、村での制度の周知については理解いたしました。では10月から保護者の実施徴収となる副食費と主食費の違いについて伺います。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 主食費につきましては、お米、パン、麺類が主食費で、副食費に関してはおかず類ですね、これにおやつ類も入ってきます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 副食費と主食費については理解いたしました。これまでは役場が保護者から徴収していた保育料の中に、副食費が含まれていたと思いますが、新制度において副食費を施設が徴収することとする趣旨は何でしょうか、伺います。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 午前中の5番議員からの質問にもありましたけれども、実際に食材料費につきましては、在宅での子育てのときにも費用が必要になりますよということと、今でも主食費に関しては保護者の実費徴収となっております。これまでは副食費は保育料に含まれていましたけれども、実際上は食費になりますので、今回これが保護者の実費徴収になるということで、実費徴収につきましては認可保育所、私立では施設で徴収、公立については保育料と一緒に合わせて実費徴収するというところの内容となっております。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 趣旨については理解いたしました。副食費については、施設によって徴収額が異なると村広報の9月号に記載されておりましたが、今婦仁村内の民間及び公立保育所は一律の金額にならないのですか。また施設ごとに任意の金額を徴収してよいのでしょうか、伺います。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 副食費の徴収額につきましては、実際に給食に使う食材料費の実費なんです。そういった場合には、逆に公立保育所では同じ献立を使って行いますから、それにかかった費用を徴収すると。ほかの施設でも異なるかと言いますが、これにつきましては民間保育所での献立に合わせて、その食材費の実費徴収になりますので、本来でしたら統一したほうがいいのかなどと思うんですけれども、それぞれ食に対する費用のかけ方等も違いますので、若干異なることが本村だけでなく、他地区でも出てくるというところは考えられます。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 徴収については理解いたしました。それでは実際に、これまでは主食費が保護者から徴収をされていたと思うんですが、これから制度が変わることに、実際に保護者負担となる主食費と副食費は、合計幾らになるのかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 公立の場合は、これまでどおり主食費は500円、副食費は材料費の実費徴収なので4,500円。この4,500円は国の平均でもあるんですけれども、本村でもその額に該当していましたので、あわせて5,000円となります。先ほど民間とは違うという話もしましたが、民間に関しては現在のところ、きのうちょっと電話してみたんですけれども、まだ決定していないというところでの話を聞いております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 桃原秀樹学校教育課長。

○ 桃原秀樹 学校教育課長 7番玉城みちよ議員の質問についてお答えします。

幼稚園については保育所と違いまして、共同調理場での調理を行って幼稚園に運んで提供するという形になっております。幼稚園と同じように主食費は500円ということになりますが、副食費については、主食費含めて月額3,000円でございますので、副食費については2,500円ということで行っております。おやつに関しては、基本的に幼稚園でございますので、幼稚園は午前中の幼児教育の部分でございますので、給食に含まれているゼリー等のおやつを抜きにして、一時預かり分のところでのおやつについては、これまでどおり実費徴収ということになります。金額については1,000円です。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 実際の保護者負担と幼稚園の内容に関しては理解いたしました。それでは公立と民間の副食費などの額が異なる場合には、村は指導等を行うことが可能なのかお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問に対してご説明いたします。

先ほど民間等も食材費が実費ということなので、これに関しては実費徴収ということですから、極端に跳ね上がるようなことがない限りは、指導はできません。実際、民間保育所のほうが食材費以上に徴収している場合には指導の対象という形になります。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 副食費、主食費の調理関係であったり、容器に関しては多分これまでの保育料の運営の中に含まれていましたよね。実際に今回徴収する分に関しては、副食費のみの徴収ということで理解してよろしいですか。それでは幼児教育、保育の無償化の実施後、私立の認可保育所における食材料費の支払いはどのように変わるのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 支払い方法だと思うんですけれども、実際、民間保育所の実費徴収の場合は施設でということになりますから、直接食材料費、副食費と主食費は、その施設で行うことになります。公立に関しては、これまでどおり保育料とプラスして行政側が徴収という徴収方法に変わります。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 食材料費の支払いについては理解いたしました。それでは副食費が施設からの徴収となることに伴い、低所得者世帯への配慮はなされると午前中の5番議員への答弁にもありましたが、まだ50%程度の世帯で副食費等に実費負担があるとのこと。やはり若者の定住や人口流出に歯どめをかけるための本村の施策として、給食費を含む保育料の完全無償化は必要ではないかと思い、私自身まだあります。そこで教育長にお伺いします。今後も全世帯の幼保無償化について検討の余地はあるのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 休憩します。

(休憩時刻 午後4時34分)

○ 座間味 薫 議長 再開します。

(再開時刻 午後4時36分)

玉城 奎教育長。

○ 玉城 奎 教育長 ただいまの7番玉城みちよ議員の質問にお答えします。

完全無償化ということなのですが、制度の安定化ということからしまして、財源の確保についてまだはっきりしていませんので、それは実施する、しないということは、これからの検討課題だと思います。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 財源が厳しいことは、私も理解しておりますが、今年度については幼保無償化に伴う市町村負担金を国からの臨時交付金で補填されていると聞いております。次年度以降は、交付税に組み込まれるとのことですが、その財源を活用することは難しいのでしょうか。再度お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 宮里 晃幼保連携推進室長。

○ 宮里 晃 幼保連携推進室長 ただいまの質問についてご説明いたします。

おっしゃるように、今年度の幼保無償化に伴う県の負担分と市町村の負担分については、国は臨時交付金で3月にその分は交付すると言っております。次年度以降は交付税の措置をとるということでありすけれども、来年度からは実際、免除した分については4分の1の市町村負担がまた出てくるんですね。交付税措置すると言いますけれども、これがまたいつまで続くかわからないと。先ほど制度が安定化するまでという話がありましたけれども、この辺の財源の確約ができないかぎり、継続して子供たちの無償化というには、今の段階では非常に厳しいというところであります。財源活用ということではありますけれども、トータルで含めて、継続した住民サービスにつながることを踏まえて、今現在できないというところであります。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 今後の幼保無償化の検討については理解いたしました。幼保、幼児教育の無償化の制度については、まだまだ複雑でわかりにくい部分もありますが、ぜひ本村の子育て世代が安心して定住につなげられるよう、また子供たちの成長に欠かせない食の分野でもありますから、行政施設、保護者の連携を図り、子供たちにとって最善な環境を整えていただきたいと思います。

最後に質問事項3. 水難防止対策についてお伺いします。残念なことに、ことしの夏休みシーズンに子供の水難事故を伝えるニュースを多く聞きました。先ほどの答弁にて学校での防止対策について、把握さ

れていたのかお伺いいたします。

○ 座間味 薫 議長 桃原秀樹学校教育課長。

○ 桃原秀樹 学校教育課長 ただいまの7番玉城みちよ議員の質問についてご説明いたします。

議員がおっしゃるように、県内においても残念なことでありますが、4月に小学校1年生が魚とりをしている最中に転落して死亡するという事故もございました。それを踏まえということではありませんが、毎年行っているのが海ということのみではなく、河川を含めた水難事故防止対策ということで、各学校において事項防止の活動を行っていることは承知しております。プラス、これは消防との日程調整になりますが、日程調整ができた学校については講話等をいただいたりという活動もしております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 対策把握については理解いたしました。先ほどの教育長の答弁にて、水難事故防止ポスター作成や、教職員向けの校内研修も行っているとありますが、水難事故防止対策のさらなる強化を図るためにも、PTAの保護者対象向けの拡大した話し合いの場も必要と考えますが、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 桃原秀樹学校教育課長。

○ 桃原秀樹 学校教育課長 ただいまの質問についてお答えします。

まず海水浴シーズンの前に保護者向けの水難事故防止に関する注意喚起の公文を流しているところです。学校においては、三者面談の中等でも、水難事故についての注意喚起というところを行っている学校もございます。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 ただいまの答弁で、PTA、学校、教育委員会と密に連携をとられて対策をしているということで答弁がございました。それでは先月2件の水難死亡事故が村内の海にて立て続けに発生いたしました。関係者、ご遺族の方々が一日も早く深い悲しみから癒されることを願います。今回のような水難事故発生は、今後本村の観光振興にどのような影響を与えると考えるのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 7番玉城みちよ議員の質問に対しまして説明いたします。

残念なことに、先月2件連続起きてしまいましたことに関しましては本当に残念でございますけれども、もちろんマイナスイメージのほうが大きいかと感じております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 マイナスイメージの影響については、理解いたしました。平成28年に発生しました、古宇利島で6歳の観光客が遊泳中におぼれてしまい、ドクターヘリにて救急搬送され一命をとりとめた事故がありました。その際に、古宇利島の遊泳区に関する適正なビーチ管理を提案させていただき、同時に水難事故防止協議会が本村に設置されたと認識していますが、これまで年に何回ほどの協議会が開催されたのか、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問に対しまして説明いたします。



まず協議会、おっしゃるとおり平成28年に設置されましたけれども、目的としましては、水難事故防止を目的としてその活動を行うということになっております。構成員として本部警察署、名護海上保安庁、本部町今帰仁村消防組合、村、漁協、区長会、その他会長が必要と認める者となっております。今回は観光協会も入っていただいて開催しております。8月23日に開催しております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 協議会の開催については、理解いたしました。本村は、観光協会の取り組み強化もあり、民泊を営む多くの事業所がふえておりますが、今後観光協会や水難防止協議会と連携を図り、村内に宿泊される観光客への事故防止策、チラシを周知していく方法も必要と考えるが、見解をお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問に対しまして説明いたします。

議員おっしゃるとおり、まさしく周知のほうが重要かと協議会としても感じているところでございます。またその協議会の中で、観光客に関しての事故の多さというのは、マリンレジャーが最も多く事故が起きておりまして、県内の方に関しましては魚釣りとか、海での魚とりに関してライフジャケットを着用していないというのが主な理由でございました。つきましては声かけももちろん大事ですが、このチラシについて、県警のほうから多言語チラシをいただきました。それをまず観光協会等に配布しまして、宿泊者にしっかり周知していただくということでありまして、おっしゃるとおり連携が重要かと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 宿泊される観光客への周知と連携は理解いたしました。先月発生してしまった水難死亡事故に関して、村内の住民は決して、たしか台風13号だったかと思いますが、そういう台風の余波や離岸流が起きそうな海へは警戒されて近寄らないのですが、観光客は滞在日数が限られている分、悪天候でも海に入ってしまう傾向にあると考えます。外国人観光客も増加し、遊泳に関する注意喚起の多言語の看板が必要ではないかと考えますが、お伺いします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 質問に対して説明いたします。

看板設置についてでございますけれども、占用許可ということがございまして、県の許可が必要になってきます。それに対して、県と協議しながら設置が可能かどうかということも検討していきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 多言語看板については、ぜひ県のほうと協議をされ、設置に向け取り組んでいただきたいと思います。今後、毎年のように観光客がふえ続け、必然的に海水浴を楽しむ者もふえてきます。潮の流れや各地区の海の状況を告知できるチラシづくりや、また発生後の初期対応について区長を初め漁業関係者やダイビング関係者などと密に連携がとれる、万一事故が発生した際には一刻を争うと思いますので、ぜひこのあたり、村民が適切な対応ができるよう水難事故防止対策のマニュアルづくりが

必要と考えますが、見解をお伺いします。

○ 座間味 薫 議長 久田哲史経済課長。

○ 久田哲史 経済課長 ただいまの質問について説明いたします。

まずはしっかりと協議会の中でどのようなことが、先んじできるか、有効的な手段があるかということをしっかり協議した上で、マニュアルづくり等が可能かどうか、検討していきたいと考えております。以上です。

○ 座間味 薫 議長 7番玉城みちよ議員。

○ 7番 玉城みちよ 議員 昨日の同僚議員からも海岸条例の質問もありましたが、今後観光客がふえ続け、海水レジャーを楽しむ目的で来村する方も大勢いらっしゃると思います。次世代に引き継ぐ本村の観光資源としても、悪いイメージがつくことのないようしっかりと看板や、水難事故防止対策のマニュアルを作成し、安全と笑顔を持ち帰りできるよう、早急に整えていただきたいと切に求め私の一般質問を終わります。

○ 座間味 薫 議長 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これで散会いたします。

(散会時刻 午後4時50分)